

極秘

大海情 陸第參拾九師

露軍ノ近況

一、一般ノ情況

(一) 滿洲方面

(六月二十日大本營
陸軍幕僚調査)

彼我偵察隊ノ衝突絶ヘス其著シキモノヲ舉クハ去十六日遼陽窩棚附近ニ於テ我偵察隊トシニチェニコ騎兵支隊ト衝突シ我ニ二百餘ノ死傷ヲ生シ敵ノ遺棄セル屍体七十以上アリ此偵察戰ニ於テ敵ノ給養充分ナラス糧食ハ主トシテ地方物資ニ因リ在ルコトヲ知リ得タリ

諜報ニ依リ露軍ハ滿洲ニ於テ糧食ヲ強行徵發シツアリ而シテ松花江ニ漢業ヲ開始シ又水路開通以來黑龍松花江水運ヲ利用シ物資ノ収集ヲ勉メツ在ルモノ如シ從テ目下西伯利鐵道ハ主トシテ軍隊補充兵ノ輸送ニ專用シ在ルモノ如ク去ル西月初ヨリ輸送ヲ始メ補

充兵ハ五月上旬ヨリ戦地ニ到着シ爾来連續絶ヘス其到着數ハ詳知スルニ由ナキモ諜報ニテ知リ得ル所ヲ計算セハ概子左ノ如シ

五月上旬ヨリ六月二十日迄ニ戦地ニ到着スヘキ補充兵十二萬餘

(此數ハ出發者クハ輸送中ニ在ルモノヲ合算セルモノナリ)

此内約二萬ハ浦塩附近ニ送ラレタルモノ、如シ

殘餘十萬ノ内約半數ハストレチンスクヨリ黑龍、松花江ヲ

經テ水路哈爾濱ニ輸送セラレタルカ如シ故ニ此等ノ到着ハ

多少遲延スルヲ免レス此遲延者及銃ヲ有セサルモノヲ十分

ノ三トセハ六月二十日迄ニ到着セシ補充兵ノ銃數約七萬ト見

ルヘキナリ即チ平均一日約千五百人ツク到着ス

露軍ハ齊々哈爾濱ヨリ伯都訥ヲ經テ滿洲鐵道ニ連絡スル野戰

鐵道ヲ敷設中ナルカ如ク現ニ它賴照ヨリ十里サテヲ經テ伯都訥

ニ至ル旧道ニ近ク更ニ二條ノ軍路ヲ開設シ在リテ月下十里サテ以西

ノ未タ竣工セスト云フ又伯都納南方松花江ニ應用材料ヲ用
ヒ架橋準備中ナリト傳フ

哈爾濱ニ重砲三百五十門アリ「クルツカ」製造場ニ注文セシモノニシテ
内十二吋二十八門九吋七十門アリ云フ半月形ニ

係望ヲ築キツマアリ三姓ニ黑龍松花江ヲ經テ輸送セラレタル歩騎兵

集合レ此ヨリ漸次南下セルモノ如シ伯都納ニ歩騎兵約二千アリト云フ

クロバトキンノトルベツコイ公ニ送リレ平和ニ関スル國民議會ノ行

動ヲ非難セシ電文ニ曰ク從來ノ經驗ヨリ新ナル砲兵戰術ヲ發明シ

戰場ノ地形漸次有利ト為リ軍ノ補充ハ速ニ實施セラレ老年ノ豫備

兵漸次減少スル等今ヤ戰勝ノ望確ナル故媾和決心ヲ為スヘカウ

スト

(二) 烏蘇利方面

謀報守田少ニ依レハ五月中烏蘇利ニ在ル敵ノ兵力左ノ如シ

浦塩斯德 約三萬 外海軍屬スル兵員職約二萬

ニコリスク

二萬

目下此地ニ千餘ノ兵アリ他ハ國門江沿岸
或ハ浦塩ニ移リシカ如シ

全地附近ノ部落

五千

ハバロフスク

三千

計

五萬八千

再後若干ノ増兵アリシヲ以テ目下六萬乃至七萬ノ兵數アルヘシ

故ニ全地ニ在ル四個師團ノ編成ハ略シ完成セルモノト見サルヘカラス

解氷(四月中旬)後ハハバロフスクニ著スル汽船毎日三十餘隻又ストレ

チンスク方向ヨリ補充兵ヲ輸送シ又哈爾賓ト定期航行ニ任ス

ルモノ約一百隻又アリト云フ

咸鏡道ニ在リシ少將ベルノフハ其職ヲ免セラレ後任ノ將官ハ去ル

七日鏡城ニ到着セリト云フ

(三) 歐露内地ノ情況

六月十日ノ御前會議ニ於テニコライ、ニコラウ、チ太公、グリツペン、ヘルグ

陸軍大臣 ^{サハ}ハ戦争繼續ヲ主張シウラヂルアレキ
サンデルニハイロウチ太公及海軍大臣 ^{アベ}ハ之ニ反對セリト云フ
露露政府ハ國民議會ノ開設ヲ迫ラレツ、アリ露都ニテハ大ナル同盟
罷工準備中ナリト云フ

要スルニ露國內ノ情况混沌トシテ^其真相ヲ窺フ能ハス和戦ノ
決然然セス能フヘクニハ今テ回ノ米國ヲ介スル媾和ヲ成立セシメント欲
スルモ主戦党ノ勢力未タ衰ヘス戦争繼續ノ準備著々進捗シ
在ルノニナラス近來例ニナク多数ノ補充兵短期間ニ極東ニ輸送
サレツ、アリ

二、増援軍發着

目下補充兵ハ陸續戦地ニ到着シツ、在リ之カ謀報下リシモ
ノ左ノ如シ

五月廿二日

寬城子北來南下

聯隊ノ二千
聯隊ノ科選抜歩兵第ハ乃至第十一

六月四日 公主峯ニ下車

第三十三師団ノ千六百人

全五日 公主峯ニ北来南下

第十九師団ノ八百人

全六日 全 右

第二十二師団ノ八百人

全六日 公主峯ニ下車

第十五師団ノ六百人

右ノ外詳ナラカルモ毎日歩兵補充兵約千五百人ツ、到着ニ在

ルモノ、如シ

其他各兵種ノ補充兵モ陸續、到着シ又左ノ部隊モ入テヤ

到着セル頃ナリ

砲兵第六十旅団ノ四中隊

四月廿日合シラスノヤルシ附近通過

全 第十旅団ノ四中隊

五月二十日チリヤビンスクウフア間ニ在リ

全 第七十五旅団ノ四中隊

五月二十日ウフアペンガ間ニ在リ

尚ホ機関砲八隊、東部西伯利獨立電信三中隊、野戰電信兵半
中隊、第一乃至第十二乘馬機関砲中隊、哥薩克騎兵モ亦既ニ戦地ニ

到着セシナラン目下歐露ヨリ輸送中ニ在ルモノ左ノ如シ

豫備第五十三師団

五月三十日乃至全日ライエラ附近出發

無線電信隊千三百人

五月廿三日ペンガ附近通過

速射砲兵六中隊

六月八九十日サマラ通過

補充兵中知り得タルモノ歩兵初年兵十萬五千四百人ニシテ

一日ノ輸送力平均約三千ナリ其内譯左ノ如シ
五月二十六日クラスノ
ヤルスク發六月十二

ノ日モスコウ著
ノ謀者報

第七十三師団三千六百人

五月廿六日クラスノヤルス
川通過

第三十四師団及東部西伯利狙撃兵三千六百人

五月廿七日
全右

第五十四師団ノ七千二百人

五月廿八日
全右

第四師団及東部西伯利狙撃兵三千百人

五月二十九日クラスノヤルス
川タイが間

第四十一師団及第五十三師団各三千六百人

第六十二師団及第四十四師団各三千六百人

五月三十日
タイがカインスク間

第十師団、第三十一師団、各三千六百人

第十一師団、第六十八師団、各三千六百人

第三十二師団、三千六百人

フルシヤフ要塞砲兵四百人、^{神塩}山砲三中队

第五十一師団、三千六百人

第十五師団、第十六師団、各三千六百人

第四十七師団、第四十八師団、各三千六百人

カゲスタン第二聯隊、砲兵八百人

第八十師団、第四十八師団、各三千六百人

第四十七師団、第三師団及近衛師団、各三千六百人

テレク、クバン騎兵八百人

機關砲二中队、砲兵彈藥縱列八列車

第七師団、第十師団、第三十八師団、各三千六百人

五月三十日、ロカイン、スクリ
アト、ロウ、ロフ、スクリ間

六月一日、アト、ロウ、ロフ、スクリ

六月二日、アト、ロウ、ロフ、スクリ
チエリヤ、ビンスクリ間

六月三日、チエリヤ、ビンスクリ

六月四日、全右

六月五日、全右

六月六日、チエリヤ、ビンスクリ、ウフア間

六月七日、ウフア、サマラ間

六月八日、サマラ、ペンガ間

六月九日、ペンガ、リア、ニスクリ間

六月十日、リア、ニスクリ、ツリ、ラ間

0665

第四十師團、三千六百人、憲兵六百人

東部西伯利橋樑第三大隊

浦塩行ノ要塞砲兵中隊約三百人砲十二門

六月十日モスリ

右ノ外衛隊四千、軍用貨物ハ此間ニ輸送中ニテ日々ノ運行列車

十七以上ナリ

東部西伯利山砲、第十三乃至第十六中隊ハ六月十日頃サマラニ到

著シ待命中ナリ

以上諸情況ニ依リ露軍配置一覽圖ヲ調劑セリ

三、新動員編成

選抜軍團及第九軍團或ハ第十九軍團極東派遣ノ説アルモ未タ信
ヲ措キ難シ是此等軍團ハ未タ動員シ在ラサレハナリ

近來將校缺乏ノ為メ修業期限ヲ短縮シ將校ヲ養成スト云フ又
退役將校ヲ召集スト傳フ

六月十一日

ツーラモスリ間

0666

六月十八日ヨリ日々軍隊列車十二、貨物列車六ノ割合ヲ以テ二十萬ノ兵ヲ二
週間内ニ出發セシムル旨ニシテ其間ハ總テノ車輛ヲ返送セスト云フ
一説ハ初年兵ヲ
總計二十萬極
東ヲ送ル
ヘト云フ又一説ニ各聯隊ヨリ出ス初年兵計八萬ヲ近々極東ニ派遣スヘト
果シテ然ラハ露國ハ新ナル團隊ヲ派遣スルコトナク數多ク補充兵ヲ送
リ定員以上ニ極東軍隊ヲ増員スルヲ企圖スルモノ、如レ

四、輸送

露國西伯利鐵道輸送力增加ノ為メ四千萬留ヲ投シ盛ニ事中軍
隊輸送ハ續々行ハレツ、在リ又返送空列車ヲ減セシカ為メ空貨車ハ
車輛ヲ除キ平面ト平面トヲ合シ無蓋貨車ニ搭載スル方法ヲ取ルコト
ヲ企テアリ目下軍隊及軍用貨物ヲ同一列車ニ混載シ日々十七乃至
二十二列車ヲ發送シ得ル見込ナリト云フ
アルム鐵道材料ノ大部ヲ西伯利鐵道ニ転送セシ結果該鐵道ノ車輛ニ不足
ヲ生ケケアリ

明治三十八年六月二十三日

大本營海軍 幕僚

0667

分割撮影ターゲット

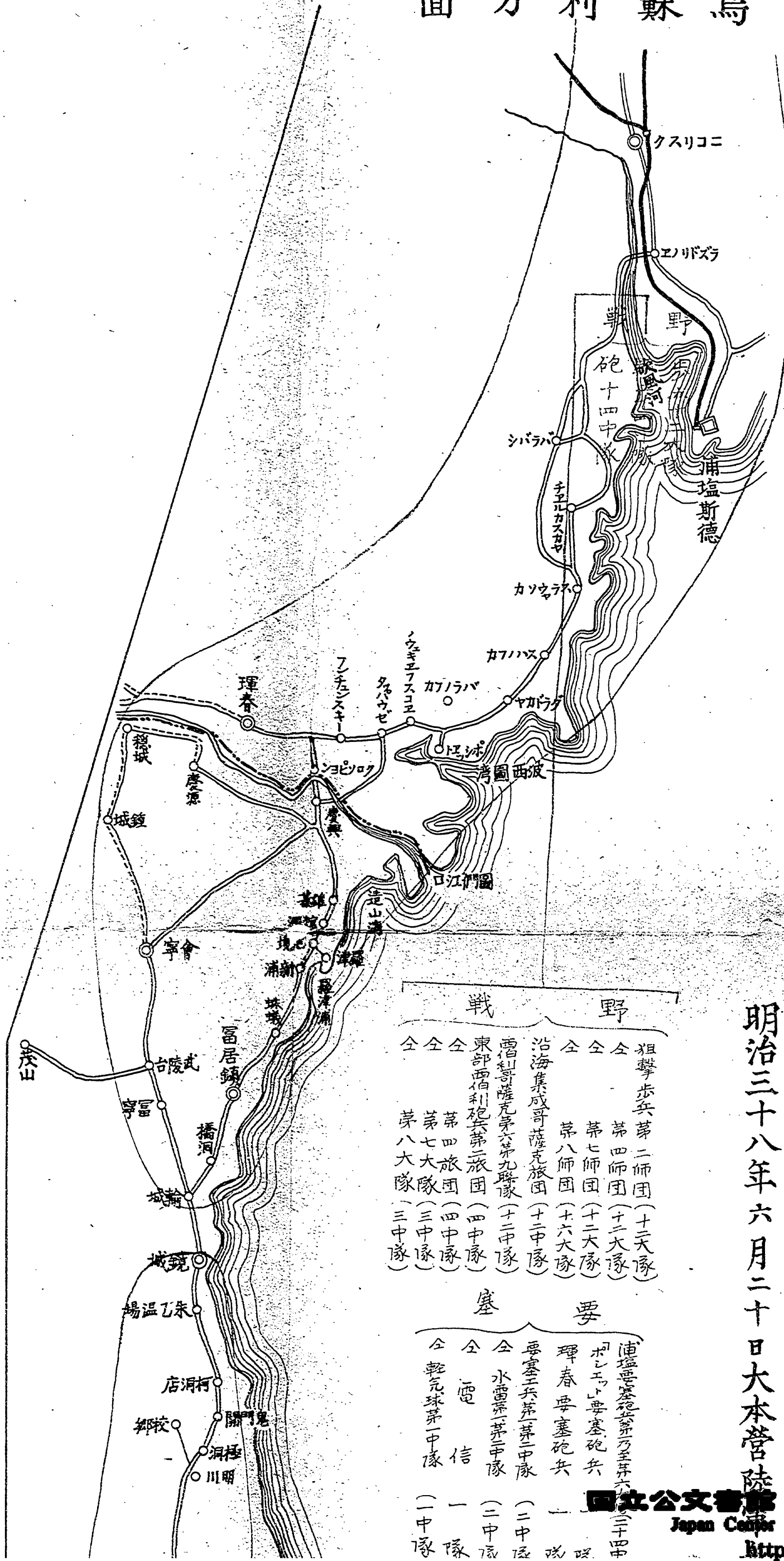
分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="655 701 1102 1122"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2								
3	4								
5	6								
7	8								
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め								
上記のとおり分割撮影した事を証明する。									

秘

烏蘇利方面

極東露軍之配置略圖

0668
0669
0670
0671
0672
0673
0674
0675



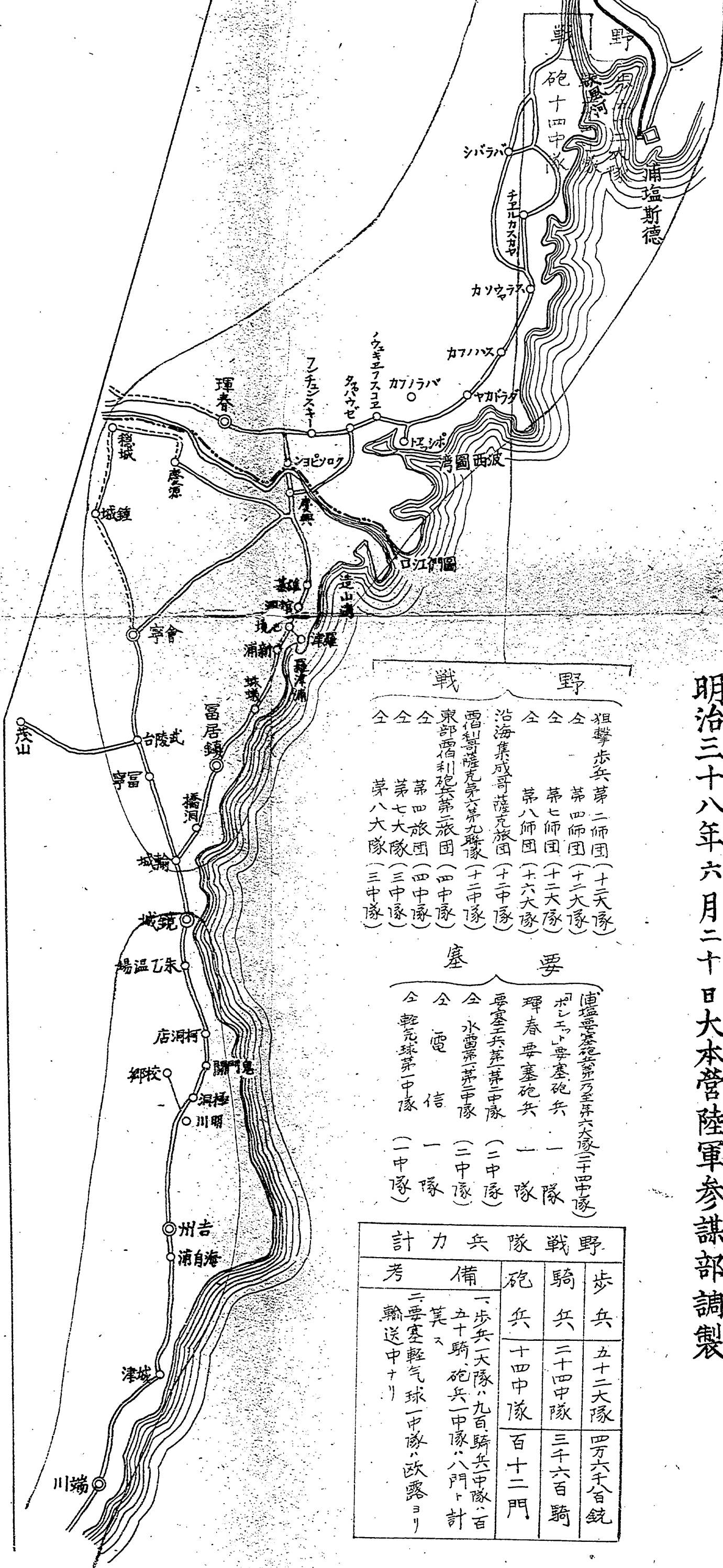
野	
全	狙撃歩兵第二師團(十二大隊)
全	第四師團(十二大隊)
全	第七師團(十二大隊)
全	第八師團(十六大隊)
全	沿海集威哥薩克旅團(十二中隊)
全	西伯利亞薩克第九聯隊(十二中隊)
全	東部西伯利亞第三旅團(四中隊)
全	第四旅團(四中隊)
全	第七大隊(三中隊)
全	第八大隊(三中隊)

要塞	
全	浦塩要塞砲兵第一至第六(二十四隊)
全	洞ノエ要塞砲兵
全	理春要塞砲兵
全	要塞三兵第一中隊
全	水雷第一中隊
全	電信
全	輕氣球第一中隊

明治三十八年六月二十日大本營陸軍

露軍之配置略圖

明治三十八年六月二十日大本營陸軍參謀部調製

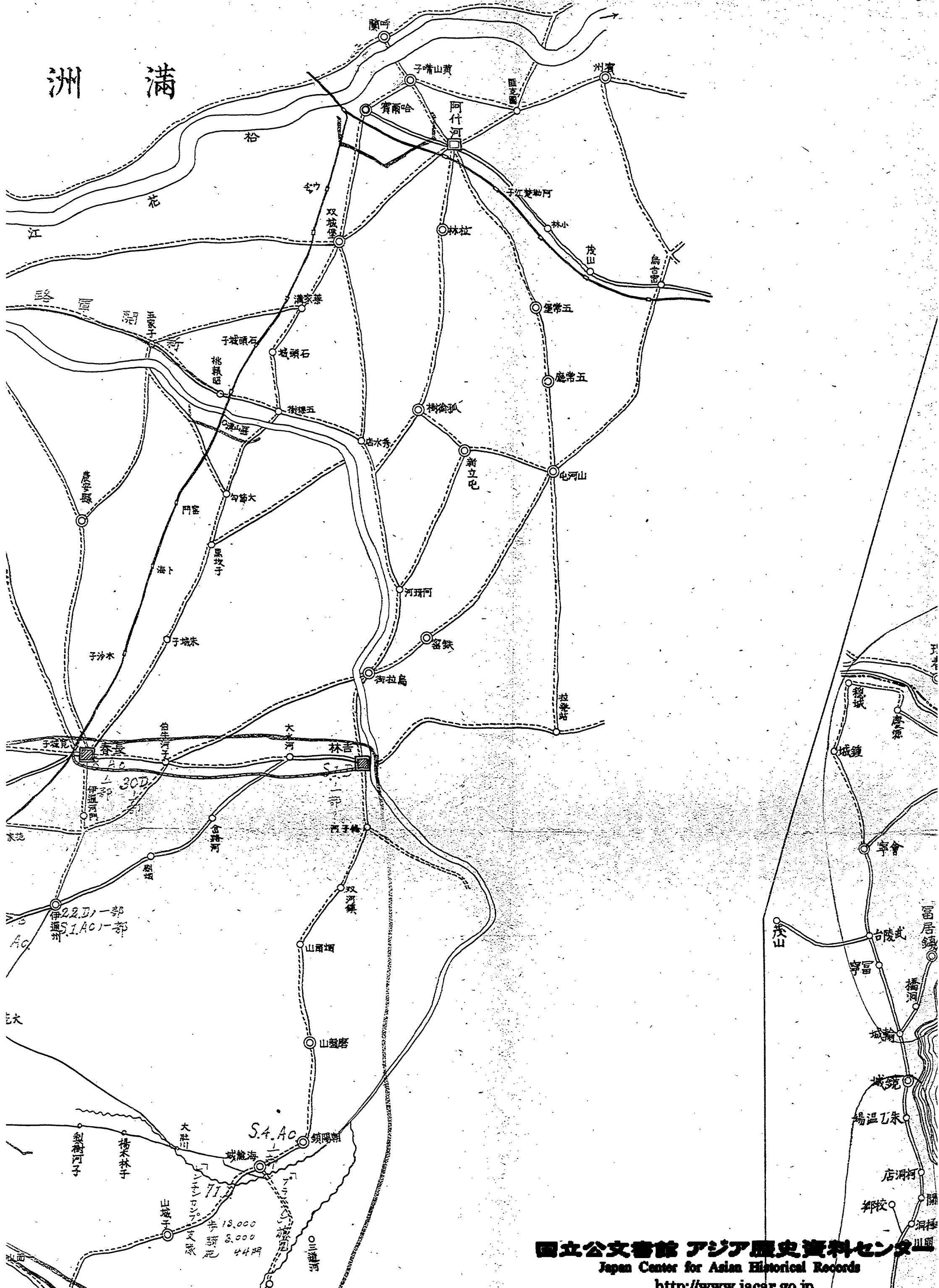


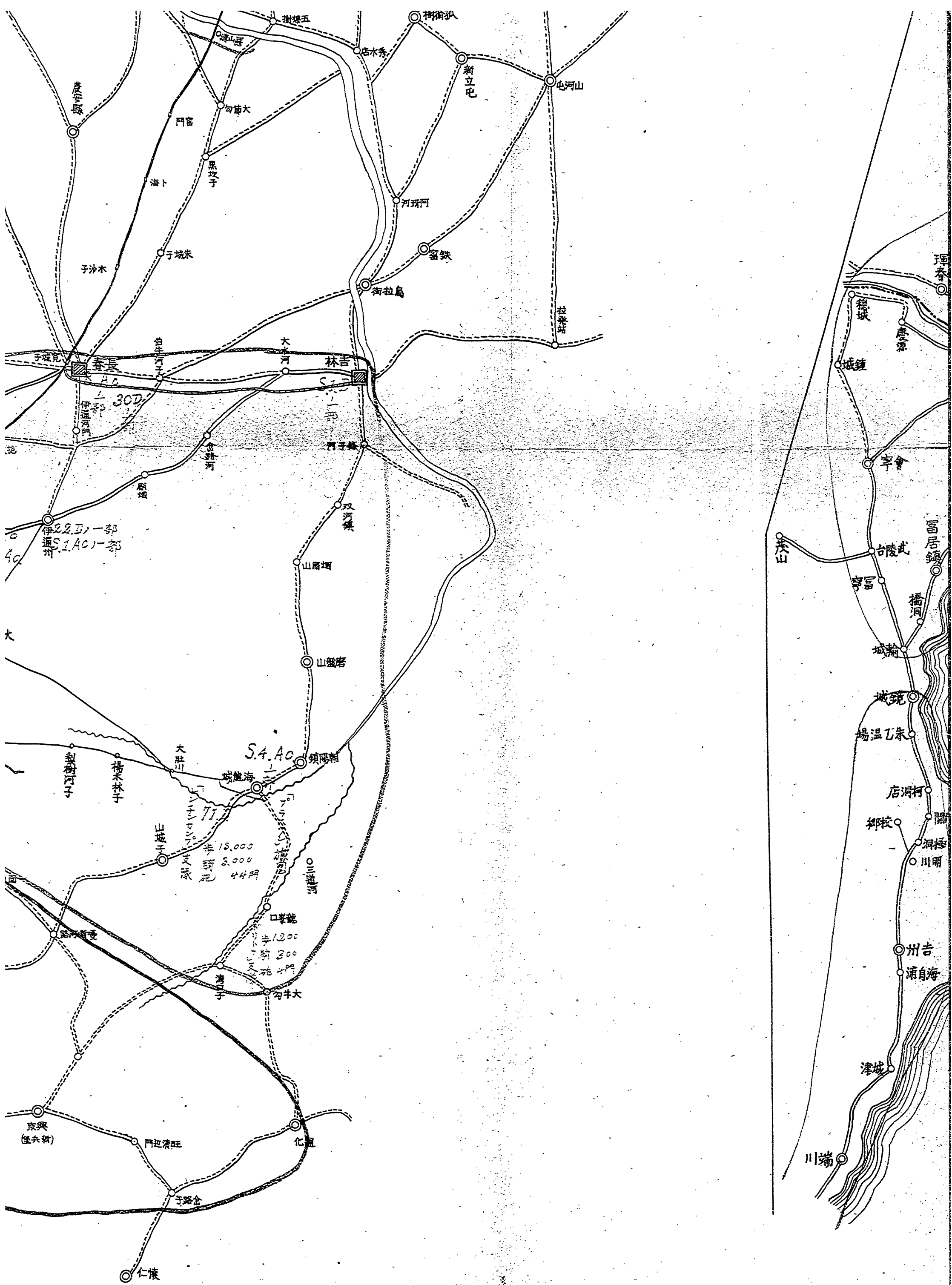
野		戰	
狙撃步兵第二師團 (十二大隊)	全	沿海集成哥薩克旅團 (十二中隊)	全
第四師團 (十二大隊)	全	西伯利亞第六第九旅團 (十二中隊)	全
第七師團 (十二大隊)	全	東部西伯利亞第二旅團 (四中隊)	全
第八師團 (十六大隊)	全	第四旅團 (四中隊)	全
		第七大隊 (三中隊)	全
		第八大隊 (三中隊)	全

要塞	
浦項要塞第一至第六大隊 (三中隊)	全
海軍要塞砲兵	一隊
要塞三兵隊 (三中隊)	一隊
水雷隊 (三中隊)	一隊
電信	一隊
輕氣球第一中隊	(二中隊)

考	野戰部隊兵力計		
	步兵	騎兵	砲兵
二要塞輕氣球一中隊、歐露ヨリ輸送中ナリ	五十二大隊	二十四中隊	十四中隊
	四万六千八百銃	三千六百騎	百十二門

滿洲



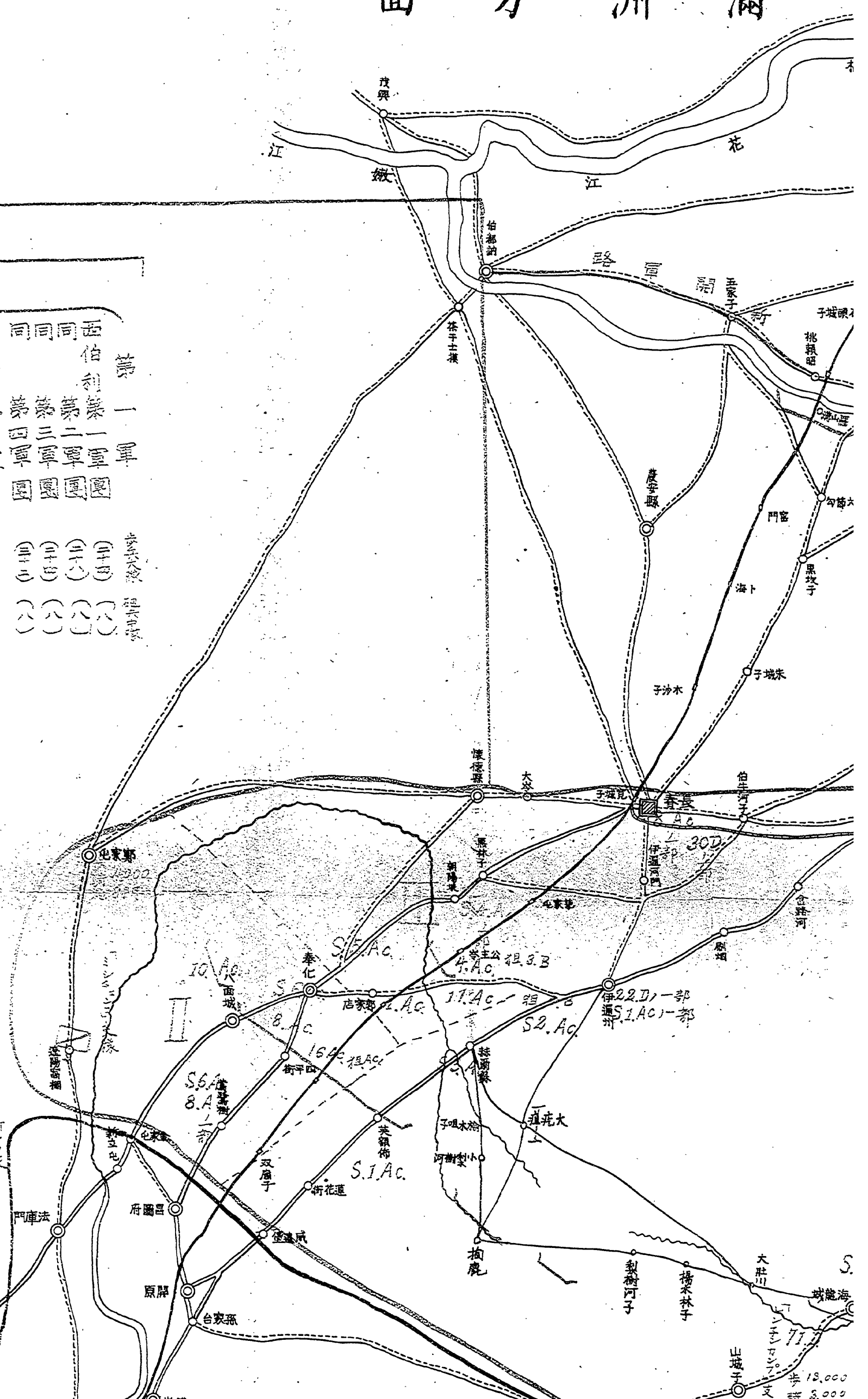


滿洲方面

第一軍	第二軍	第三軍	第四軍	第五軍	第六軍	第七軍	第八軍	第九軍	第十軍	第十一軍	第十二軍	第十三軍	第十四軍	第十五軍	第十六軍	第十七軍	第十八軍	第十九軍	第二十軍	第二十一軍	第二十二軍	第二十三軍	第二十四軍	第二十五軍	第二十六軍	第二十七軍	第二十八軍	第二十九軍	第三十軍	第三十一軍	第三十二軍	第三十三軍	第三十四軍	第三十五軍	第三十六軍	第三十七軍	第三十八軍	第三十九軍	第四十軍
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------

騎兵	山砲兵	野砲兵	攻勢砲兵	獨逸砲兵隊
(一)	(三)	(八)	(一)	(一)

第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第五師團	第六師團	第七師團	第八師團	第九師團	第十師團	第十一師團	第十二師團	第十三師團	第十四師團	第十五師團	第十六師團	第十七師團	第十八師團	第十九師團	第二十師團	第二十一師團	第二十二師團	第二十三師團	第二十四師團	第二十五師團	第二十六師團	第二十七師團	第二十八師團	第二十九師團	第三十師團	第三十一師團	第三十二師團	第三十三師團	第三十四師團	第三十五師團	第三十六師團	第三十七師團	第三十八師團	第三十九師團	第四十師團
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------



第一團 第一營 第一連
 第二團 第二營 第二連
 第三團 第三營 第三連
 第四團 第四營 第四連
 第五團 第五營 第五連
 第六團 第六營 第六連
 第七團 第七營 第七連
 第八團 第八營 第八連
 第九團 第九營 第九連
 第十團 第十營 第十連
 第十一團 第十一營 第十一連
 第十二團 第十二營 第十二連
 第十三團 第十三營 第十三連
 第十四團 第十四營 第十四連
 第十五團 第十五營 第十五連
 第十六團 第十六營 第十六連
 第十七團 第十七營 第十七連
 第十八團 第十八營 第十八連
 第十九團 第十九營 第十九連
 第二十團 第二十營 第二十連

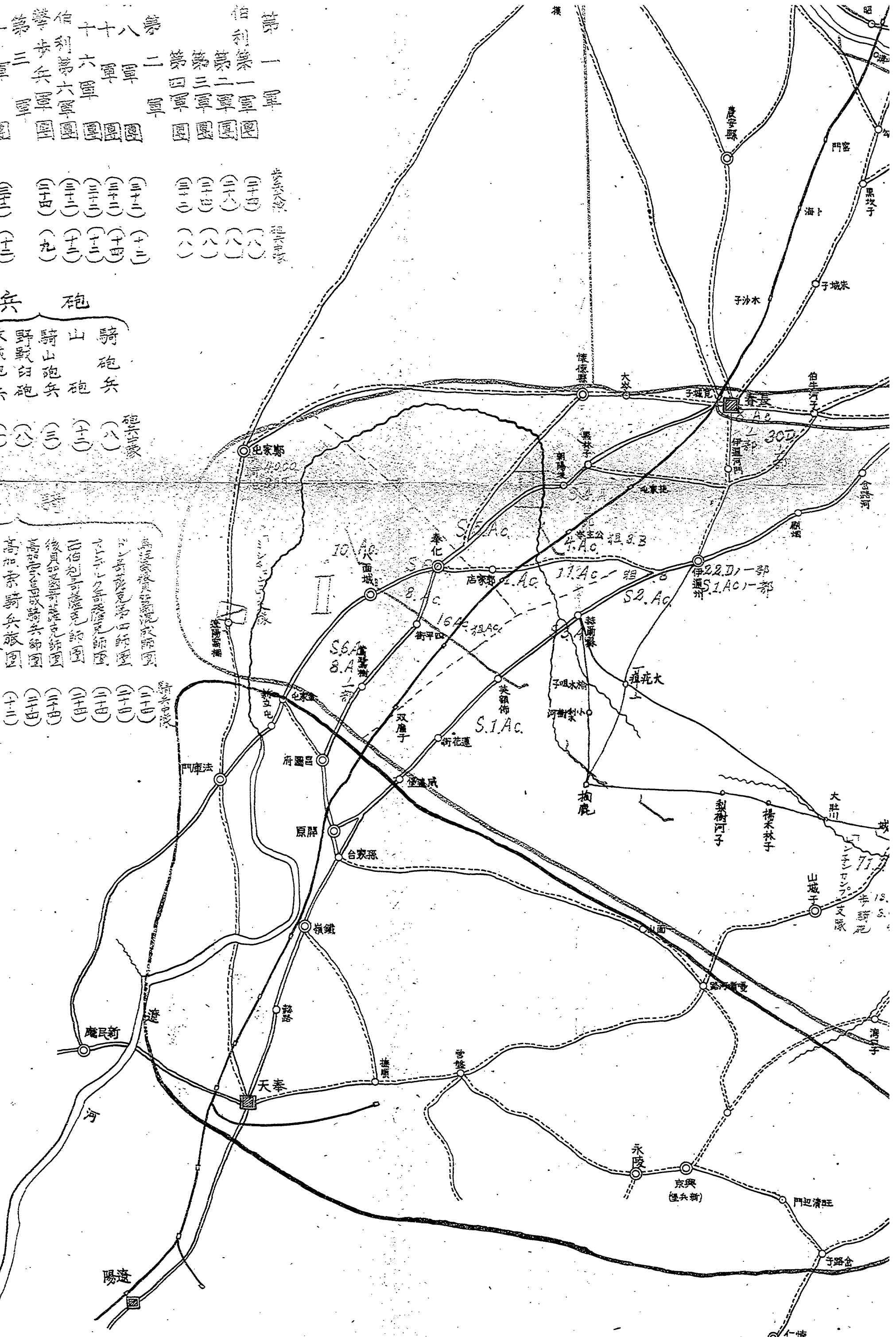
第一營 第一連
 第二營 第二連
 第三營 第三連
 第四營 第四連
 第五營 第五連
 第六營 第六連
 第七營 第七連
 第八營 第八連
 第九營 第九連
 第十營 第十連
 第十一營 第十一連
 第十二營 第十二連
 第十三營 第十三連
 第十四營 第十四連
 第十五營 第十五連
 第十六營 第十六連
 第十七營 第十七連
 第十八營 第十八連
 第十九營 第十九連
 第二十營 第二十連

兵 砲

騎砲兵	山砲兵	騎山砲兵	野戰砲兵	攻勢砲兵	總隊砲兵
(八)	(三)	(三)	(八)	(十)	(一)

第一團 第一營 第一連
 第二團 第二營 第二連
 第三團 第三營 第三連
 第四團 第四營 第四連
 第五團 第五營 第五連
 第六團 第六營 第六連
 第七團 第七營 第七連
 第八團 第八營 第八連
 第九團 第九營 第九連
 第十團 第十營 第十連
 第十一團 第十一營 第十一連
 第十二團 第十二營 第十二連
 第十三團 第十三營 第十三連
 第十四團 第十四營 第十四連
 第十五團 第十五營 第十五連
 第十六團 第十六營 第十六連
 第十七團 第十七營 第十七連
 第十八團 第十八營 第十八連
 第十九團 第十九營 第十九連
 第二十團 第二十營 第二十連

第一營 第一連
 第二營 第二連
 第三營 第三連
 第四營 第四連
 第五營 第五連
 第六營 第六連
 第七營 第七連
 第八營 第八連
 第九營 第九連
 第十營 第十連
 第十一營 第十一連
 第十二營 第十二連
 第十三營 第十三連
 第十四營 第十四連
 第十五營 第十五連
 第十六營 第十六連
 第十七營 第十七連
 第十八營 第十八連
 第十九營 第十九連
 第二十營 第二十連



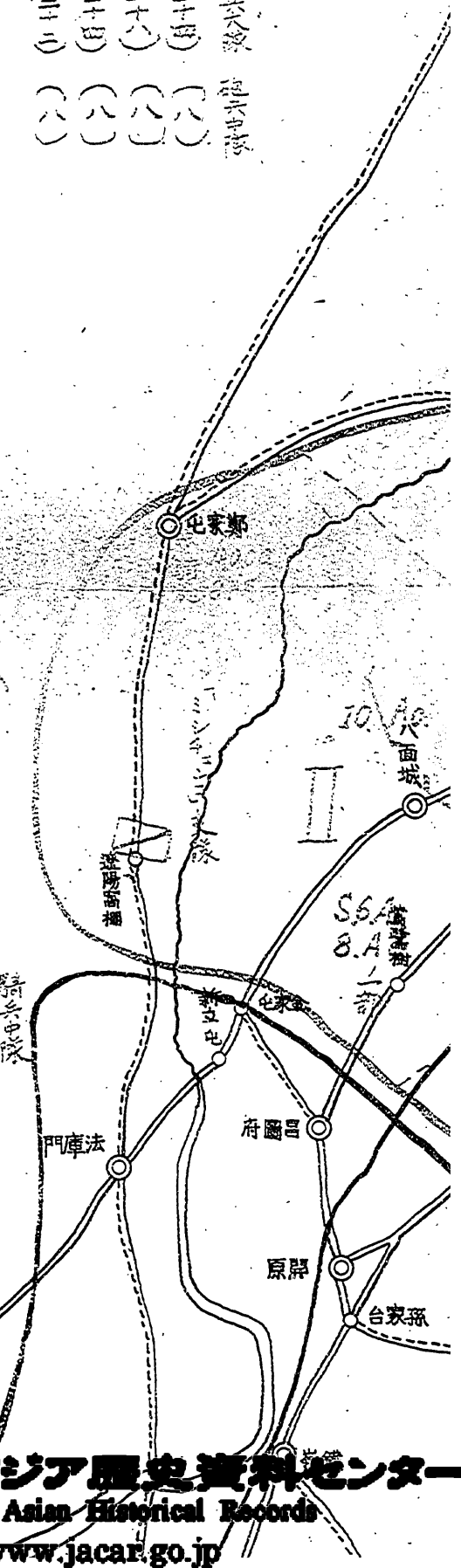
歩		砲		兵	
第一軍	第一軍	第一軍	第一軍	第一軍	第一軍
第二軍	第二軍	第二軍	第二軍	第二軍	第二軍
第三軍	第三軍	第三軍	第三軍	第三軍	第三軍
第四軍	第四軍	第四軍	第四軍	第四軍	第四軍
第五軍	第五軍	第五軍	第五軍	第五軍	第五軍
第六軍	第六軍	第六軍	第六軍	第六軍	第六軍
第七軍	第七軍	第七軍	第七軍	第七軍	第七軍
第八軍	第八軍	第八軍	第八軍	第八軍	第八軍
第九軍	第九軍	第九軍	第九軍	第九軍	第九軍
第十軍	第十軍	第十軍	第十軍	第十軍	第十軍
第十一軍	第十一軍	第十一軍	第十一軍	第十一軍	第十一軍
第十二軍	第十二軍	第十二軍	第十二軍	第十二軍	第十二軍
第十三軍	第十三軍	第十三軍	第十三軍	第十三軍	第十三軍
第十四軍	第十四軍	第十四軍	第十四軍	第十四軍	第十四軍
第十五軍	第十五軍	第十五軍	第十五軍	第十五軍	第十五軍
第十六軍	第十六軍	第十六軍	第十六軍	第十六軍	第十六軍
第十七軍	第十七軍	第十七軍	第十七軍	第十七軍	第十七軍
第十八軍	第十八軍	第十八軍	第十八軍	第十八軍	第十八軍
第十九軍	第十九軍	第十九軍	第十九軍	第十九軍	第十九軍
第二十軍	第二十軍	第二十軍	第二十軍	第二十軍	第二十軍

砲		兵	
騎砲兵	砲兵	騎砲兵	砲兵
山砲	砲	山砲	砲
野戰砲	砲	野戰砲	砲
攻城砲	砲	攻城砲	砲
獨立砲隊	砲	獨立砲隊	砲

- 第一旅團
- 第二旅團
- 第三旅團
- 第四旅團
- 第五旅團
- 第六旅團
- 第七旅團
- 第八旅團
- 第九旅團
- 第十旅團
- 第十一旅團
- 第十二旅團
- 第十三旅團
- 第十四旅團
- 第十五旅團
- 第十六旅團
- 第十七旅團
- 第十八旅團
- 第十九旅團
- 第二十旅團

兵力計		
砲	騎	歩
百九十一	二百一	四百五十

一五月上旬以表補充... 且東部西伯利祖擊步兵第十師團ヲ編成セシニ因リ共
 九百ト計算ス但新系... 砲數ハ其後十二中隊... 二本圖外歐露ヨリ増...
 豫備第五... 東部西伯利... 全速射... 外ニ補充兵...

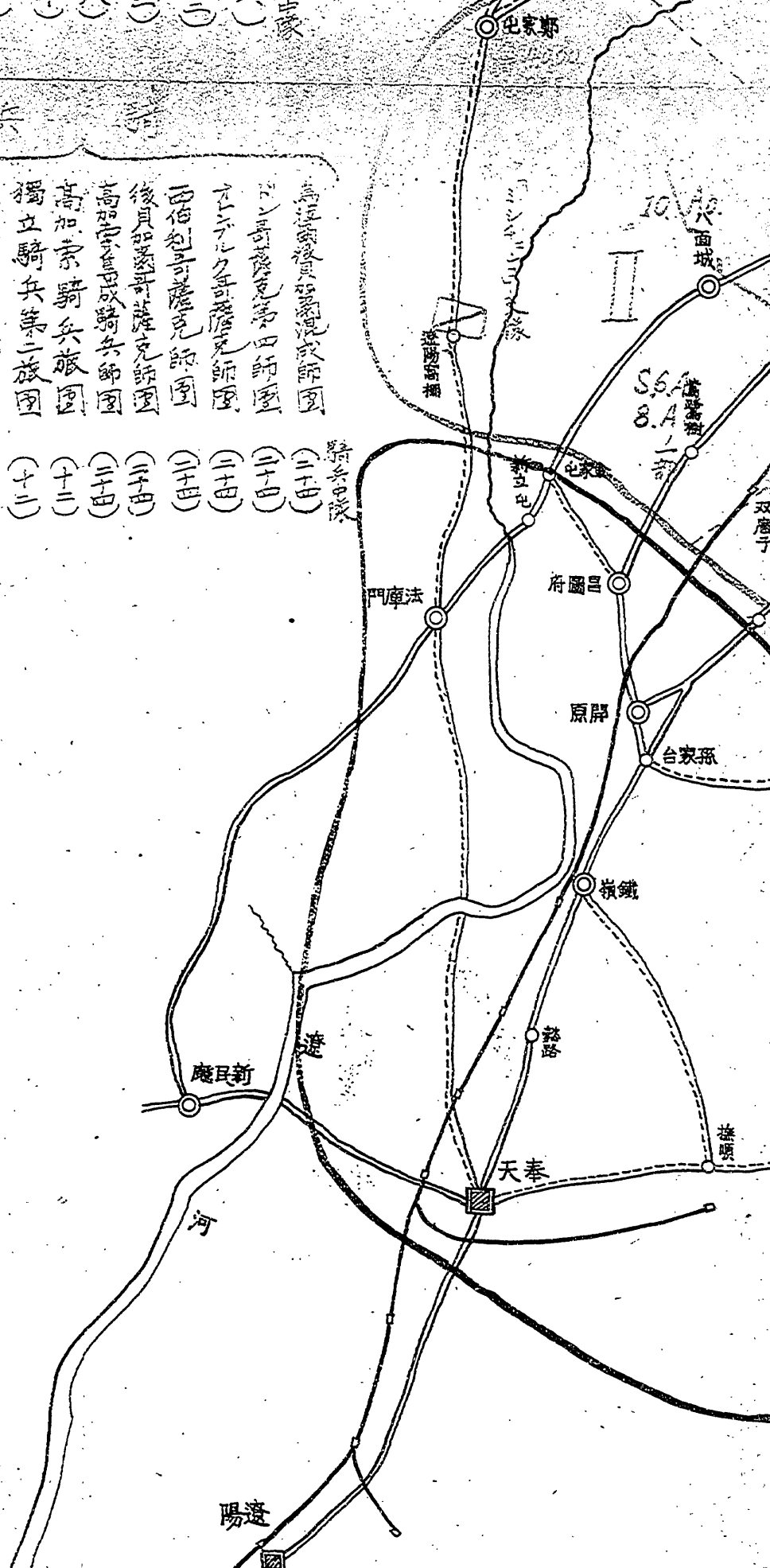


第一軍 第一旅團
 第二軍 第二旅團
 第三軍 第三旅團
 第四軍 第四旅團
 第五軍 第五旅團
 第六軍 第六旅團
 第七軍 第七旅團
 第八軍 第八旅團
 第九軍 第九旅團
 第十軍 第十旅團
 第十一軍 第十一旅團
 第十二軍 第十二旅團
 第十三軍 第十三旅團
 第十四軍 第十四旅團
 第十五軍 第十五旅團
 第十六軍 第十六旅團
 第十七軍 第十七旅團
 第十八軍 第十八旅團
 第十九軍 第十九旅團
 第二十軍 第二十旅團

(三十三) (三十三) (三十三) (三十三) (三十三) (三十三) (三十三) (三十三) (三十三) (三十三)
 (三十二) (三十二) (三十二) (三十二) (三十二) (三十二) (三十二) (三十二) (三十二) (三十二)
 (三十一) (三十一) (三十一) (三十一) (三十一) (三十一) (三十一) (三十一) (三十一) (三十一)
 (三十) (三十) (三十) (三十) (三十) (三十) (三十) (三十) (三十) (三十)
 (二十九) (二十九) (二十九) (二十九) (二十九) (二十九) (二十九) (二十九) (二十九) (二十九)
 (二十八) (二十八) (二十八) (二十八) (二十八) (二十八) (二十八) (二十八) (二十八) (二十八)
 (二十七) (二十七) (二十七) (二十七) (二十七) (二十七) (二十七) (二十七) (二十七) (二十七)
 (二十六) (二十六) (二十六) (二十六) (二十六) (二十六) (二十六) (二十六) (二十六) (二十六)
 (二十五) (二十五) (二十五) (二十五) (二十五) (二十五) (二十五) (二十五) (二十五) (二十五)
 (二十四) (二十四) (二十四) (二十四) (二十四) (二十四) (二十四) (二十四) (二十四) (二十四)
 (二十三) (二十三) (二十三) (二十三) (二十三) (二十三) (二十三) (二十三) (二十三) (二十三)
 (二十二) (二十二) (二十二) (二十二) (二十二) (二十二) (二十二) (二十二) (二十二) (二十二)
 (二十一) (二十一) (二十一) (二十一) (二十一) (二十一) (二十一) (二十一) (二十一) (二十一)
 (二十) (二十) (二十) (二十) (二十) (二十) (二十) (二十) (二十) (二十)
 (十九) (十九) (十九) (十九) (十九) (十九) (十九) (十九) (十九) (十九)
 (十八) (十八) (十八) (十八) (十八) (十八) (十八) (十八) (十八) (十八)
 (十七) (十七) (十七) (十七) (十七) (十七) (十七) (十七) (十七) (十七)
 (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六)
 (十五) (十五) (十五) (十五) (十五) (十五) (十五) (十五) (十五) (十五)
 (十四) (十四) (十四) (十四) (十四) (十四) (十四) (十四) (十四) (十四)
 (十三) (十三) (十三) (十三) (十三) (十三) (十三) (十三) (十三) (十三)
 (十二) (十二) (十二) (十二) (十二) (十二) (十二) (十二) (十二) (十二)
 (十一) (十一) (十一) (十一) (十一) (十一) (十一) (十一) (十一) (十一)
 (十) (十) (十) (十) (十) (十) (十) (十) (十) (十)
 (九) (九) (九) (九) (九) (九) (九) (九) (九) (九)
 (八) (八) (八) (八) (八) (八) (八) (八) (八) (八)
 (七) (七) (七) (七) (七) (七) (七) (七) (七) (七)
 (六) (六) (六) (六) (六) (六) (六) (六) (六) (六)

砲兵
 騎砲兵 (八)
 山砲 (三)
 騎山砲兵 (三)
 野戰砲 (八)
 攻城砲兵 (十)
 獨立砲中隊 (一)

第一旅團 (六)
 第二旅團 (三)
 第三旅團 (三)
 第四旅團 (三)
 第五旅團 (三)
 第六旅團 (三)
 第七旅團 (三)
 第八旅團 (三)
 第九旅團 (三)
 第十旅團 (三)
 第十一旅團 (三)
 第十二旅團 (三)
 第十三旅團 (三)
 第十四旅團 (三)
 第十五旅團 (三)
 第十六旅團 (三)
 第十七旅團 (三)
 第十八旅團 (三)
 第十九旅團 (三)
 第二十旅團 (三)



兵力計 (除方面)		
砲兵	騎兵	歩兵
百九十九中隊	二百一中隊	四百五十大隊
千百五十六門	三万五千騎	三万五千騎

備考

一、五月上旬以来補充兵七万到着し且東部西伯利祖擊歩兵第十師団ヲ編成セシニ因リ歩兵一大隊ノ銃數ヲ五百六十ト計算ス但新系ノ第百軍団ノ祖擊歩兵第三第四旅團並後黑龍龍境第二旅團及「グラス」徒歩旅團ノ計五十八大隊ヲ九百ト計算ス(騎兵八中隊、計算ス)

砲數ハ其後十二中隊(砲六門)ヲ增加ス但外ニ「哈尔賓」重砲約二百五十門アリ

二本圖外歐露ヨリ增加ス左ノ團隊アリ

豫備第五師団(歩十六大隊)
 東部西伯利祖擊旅團(砲四中隊)
 全遠射砲旅團(砲六中隊)
 外ニ補充兵十五旅團目下輸送中

計 歩十六大隊
 砲十中隊

大海情陸第四拾號

露軍ノ近況

一、一般ノ情況

(一) 滿洲方面

(六月三十日大本營
陸軍幕僚調査)

謀報ニ依リ奉天ハ八面城、四平街附近ニ在リレ露軍ノ大部
 ハ六月中旬ヨリ西方ニ移動シ七月上旬活動ヲ始ムルナラント云フ
 露軍ノ本陣地ハ詳ナラサルモ鄭家屯附近ヨリ奉化ヲ經テ火石
 峯ニ見ル線ト八面城ヨリ四平街ヲ經テ横道河子ニ見ル線ノ二
 線ニ撰定セラレ在ルカ如シ又掏鹿及海龍附近ニモ陣地ヲ構成
 シ在リ而シテ前衛ハ双廟子、柳條勾附近ノ陣地ニ據リテ本軍
 ヲ掩護シ在ルカ如シ

本月中旬我偵察隊ノ行動頻繁ニシテ到ル所敵ト衝突セリ其

0676

著之キモノハ二十一日向陽鎮附近、二十二日南山城子附近、二十一日茶棚菴附近(敵ノ前進ニ依ル)ノ小戦是レナリ此等衝突中得タル捕虜ノ言ニ依リ東部西伯利狙撃歩兵各聯隊^{第四}大隊ヲ編成シ在ルコトヲ知リ得タリ
歐電ニ依リハ滿洲露軍(狙撃歩兵第十師團及第五十三師團ヲ除ク)ノ兵力ハ戰鬥定員四十六萬現在員三十四萬五千ナリト云フ

(二) 烏蘇利方面

我軍ノ先頭ハ去ル二十日鏡城ヲ占領シ次テ二十六日輸城ヲ占領セリ鏡城ニ在リシ敵ハ少將バウロフ^{烏蘇利哥薩}指揮スル騎兵約二千砲八門ニシテ抵抗スルコトナク富居及富寧方面ニ退却セリ後チ此敵ノ首ヲハ富寧附近ニ集合シ停止シ在ルカ如シ

0677

六月二十日歩兵約三千ヤンチヘノウキエフスクヨリ慶興ヲ通過
 シ會寧方向ニ前進セリ又二十日頃チタソニ約五千ノ兵アリヤンチ
 へ方向ヨリ来リレモノナリト二十日チタソヨリ歩兵千五百西進セ
 リ又琿春ニモ約四千ノ兵アルカ如シ西安スルニ琿春、會寧間
 北方ニ兵力ヲ集合セシ形跡アリ
 ニ十日露都元新聞電報ニ依テ浦塩ヨリ東部西伯利担撃
 歩兵三聯隊騎兵砲兵等一萬二千ヲ撤回セシハ韓国ヨリノ
 日本第六軍(十萬司令官長谷川)ニ對抗ノ為メ後方ニ集
 中ノ露軍ニ配属セルナリト蓋シ我北韓軍ノ前進ニ依リ滿洲
 露軍ノ左側北背掩護ノ必要生シタルニ因レルナラン
 本月上旬ヤンチヘニ二、三千、同地ラズドリノエ間各地ニ六千ラズ
 ドリノエニ三千、ヨリスクニ一萬ノ露兵アリレト云フ

(三) 樺太方面

コルサコフヨリ逃レ来リシ露人(露國囚徒ニシテモ)ノ言ニ依リ
コルサコフ附近ノ守兵ハ約千二百名ニシテ内四百名ハ現役兵
ナリ右ノ外外國人ヨリ徵募シタル義勇兵若干アリコルサコフ
ニ重砲二門輕砲七、八門配置サレアリ

(四) 歐露ニ於ケル情況

露帝ハ六月十九日莫斯科及伯得堡ノ代表者ヲ引見シ民
選議院設立ノ意志堅固ナル旨宣言セリ之因リ人民トノ
妥協ヲ得戦争繼續ノ方法ヲ取リ得ルニ至ルヲラント云フ

六月二十日ロツジニ於テ約七萬ノ職工大示威運動ヲ起シ軍隊
ト衝突シ多數ノ死傷アリ附近ノ軍隊ハ集合シ今ヤ第十師團
ノ全部及歩兵第十、第十五聯隊ハ同地ニ在リ戒嚴ヲ布キ
騎兵第一軍團長レユトレウオルト中將同地司令官タリオデ
ツリニ於テモ軍艦ボテムキンノ水兵ノ艦長以下多數ノ將校

ヲ殺害シ反旗ヲ攀ケ暴動ト共ニ鎮壓ノ軍隊ニ抵抗セリ
ト云フ

ロツジノ騷亂ニ際シ某龍騎兵聯隊將校ハ武装セサル人民
ニ對シ發射スルコトヲ拒メリ又ウラスノエセロニ於テ將校數百名
ハ集會シ軍隊ノ國民ニ對スル警告察ニ使用セラルコトニ反對
シ伯得堡軍管副司令官臨場シ解散ヲ命セリ

波羅的艦隊全滅ノ結果日本海軍ノ波羅的沿岸ニ現出
センコトヲ恐レ堡壘上ヲ増設シ防衛ヲ嚴ニミツ、在リ

極東特別委員會會及其事務所ハ勅令ニ依リ廢止セラレキ
シ、海軍大將ハ極東總督ヲ免セラレ帝國評議員ニ
轉任セリ

露國ノ財政困難近日内國債ヲ押賣セントスルノ風説アリ

二、増援軍發著

戦地到着ニ関スル情報ニ接セス但シ輸送途中ニ在ル左ノ部
隊ハ本月中旬ニ到着シ得ルノ距離ニ在リ
六月五日チエリヤビンスク
以東ニ在ルモノ

一、補充歩兵約二萬八千八百人

内浦塩方面ニ赴クモノ或ハ黒龍江ニ由ルモノアルヘキヲ以テ哈爾濱
附近ニ到着スル歩兵銃數ハ二萬内外ナラン

二、山砲三中队

多分東部西伯利速射山砲第十三乃至第十五中队ナラン

目下歐露ヨリ輸送中ニ在ルモノ左ノ如シ

隊備歩兵第五十三師團

内第二百九聯隊ハ五月十二日、第二百十聯隊及師團司令部ハ全

二十日、第二百十一聯隊ハ全十五日出發、第二百十二聯隊ハ全十

五日ニコラエラ通過、六月十日、第二百十一聯隊ノ將校マンジュリヤ停

車場ヨリ本國ニ通信セリト云フ故ニ先頭ハ今ヤ戦地ニ到着シツ

在ハナラン

0681

東部西伯利橋樑第三大隊

六月十一日ツーラモスコイ間通過

浦塩要塞砲兵二中隊 砲十二門

六月十二日モスコイ通過

其他補充兵ノ輸送中ニ在ルモノ歩兵約十萬、騎兵千六百、
等ニシテ其内譯左ノ如シ

第四十七師團、第十四師團、各三千六百人

六月六日

カゲスタシ第二聯隊ノ騎兵八百人

チエリヤヒニスクウ列間

第八十師團、第四十八師團、各三千六百人

六月七日ウファサマラ間

第四十七師團、第三師團及近衛師團各三千六百人

六月八日

テレク、クバン騎兵八百人

サマラ、ペンガ間

機関砲二中隊、砲兵彈藥縱列八列車

六月九日
マシゴリアリスク間

第七師團、第十師團、第二十八師團、各三千六百人

六月十日カレスクツツ列間

第四十師團ノ三千六百人、憲兵六百人、育上ヨツラモスコイ間

東部西伯利担撃步兵補充兵一萬五千人、育上ヨツラモスコイ通過

第一、第三、第四、第十五、第十六、
六月十日乃至十三日サマラエ通過外ニ
第七、第十師團ノ三千六百人アルモ前
ト重複ニ付之ヲ省ク

第三十六師團約八千四百人

第五十九、第六十補充大隊
五月下旬オデッサ出發

第五十九聯隊補充兵千四十人
六月六日オデッサ出發

第三十、第五十三、第五十四、第三十五、第四十師團ノ
六月十日乃至十六日サマラエ通過外ニ
通過ハ毎日六列車、一
列車千二百人

補充兵及沿海州國境守備兵計三萬六千人

六月七日乃至十六日軍隊列車毎日平均三列車運行セリト云フ

以上諸情況ニ依リ露軍配置一覽圖ヲ調製セリ

三、新動員編成

本旬得ル情報ノ要旨左ノ如シ

- 一、捕虜ノ言ニ依リハ在滿洲東部西伯利担撃步兵各聯隊ニ第

四大隊ヲ増設セリ

在烏蘇利同狙撃步兵聯隊モ（在浦塩ノモノハ第四大隊編成

ノコト既ニ知ル所ナリ）亦同様第四大隊ヲ増設セルナラン

二六月二十三日ヨリ莫斯科軍管ニ於テ動員スアリ其團隊辨

未詳（一説ニ此報道ハ媾和ノ為メニスル虚報トアリ）

莫斯科市長ハ動員ニ際シ住民ニ静粛ヲ守ルヘキ告示ヲ

出セリ又同市ハ第九回動員白砲大隊ノ編成ノ為メ召集セラ

レタル豫備兵休養ハ為メ一萬留ヲ支出スルコトヲ決議セ

リト云フ

第十九軍團ハ五月下旬ヨリ動員スレ或ハ輸送中ナリト云フ

又第七軍團第十九師團ニ切カニ動員令ヲ下サレタリトノ

説アリ第八回ノ動員ハ彼得堡、莫斯科、ウチリナオテッ

カ管區ニ發令アリ完結ハ早クモ六月二十八日ナリト云フ

第九回ノ勤員準備ニモ著手セシカ如シ

三、隊備第五十六師團ヲ極東ニ派遣スルナラントノ説アリ

四、乘馬電信半中隊二個（一ハ車輛、一ハ駄馬編成）ヲ露

都ニ於テ編成ス（キ上ノ勅令アリ）

五、六月十日勅令ニテ臼砲各聯隊ノ臼砲ヲ榴彈砲（十三班）

ニ交換シ左ノ如ク二中隊宛ノ大隊ニ編成替ヲ為シ極東ニ派

遣セシムヘキ旨ヲ達セリ

第三聯隊ノ四中隊（此聯隊は最ニ極東ニ派遣ニ定メラレモ）

第一大隊

第一聯隊ノ四中隊

第二大隊

第六聯隊ノ二中隊

第三大隊

第二聯隊ノ四中隊

第四大隊

コロムナニテ新設ノ二中隊

第五大隊

同勅令ニ依リ總司令官ハ東部西伯利臼砲二中隊ヲ同大隊

0685

二白砲第四、第五聯隊ヲ第五乃至第十二大隊ノ大隊ニ編
成替スルヲ得ト規定セリ

六、東部西伯利獨立電信三中队ハ二部ニ分レ各部ハ三個ノ

通信所ヲ有スル「マルコニー」式無線電信器ヲ備フ

七、浦塩輕氣球中队ハ本部ト監視哨三個ヨリ成リ紙鳶式
輕氣球九個ヲ備フ

八、ルレンダフオルニ於テ制衣造セレ「マルコニー」式無線電
信用車輛六十四輛ヲ六月十五日極東ニ發送セリ注文ノ車
輛總數計二百輛ナリト云フ

九、第十軍團ノ乘馬步兵ニハ軍刀ヲ帶フル騎兵ヲ流用セリ
十、東部西伯利狙撃步兵第二師團ノ各聯隊(第五聯隊欠)
ヨリ中佐以下二十四名ヲ同步兵第四十一聯隊ニ転任セリ之ニ
依リ第四十一聯隊ノ新設セラレタルヲ知ル然レトモ此隊ハ何

0686

レニ屬スルヤ明カナラス唯^レ烏蘇利方面ニ在ルキヲ推知
シ得ルノシ

四、鐵道等

貝加尔回湖線ニ待避線ヲ設ケタル結果全体ノ輸送力ヲ増加セリ
ト云フ謀報ニヨレハイルクツク以南ノ線路上ニ大修理行ハ各
十分行程ノ所ニ待避線ヲ設ケタル結果運行便宜ト為リ複線
ヲ設ケルノ要ナキニ至リト蓋シ回湖線ノ事ヲ云フナランカ
露國ハ機關車千餘其屋ヲ更ニ注文セリト云フ
黑龍江ニ沿フ鐵道布設ノ計畫アリ其經費ハ四億四千萬留
ナリト稱ス

六月十八日ヨリ日々十二列車ヲ以テ軍隊ヲ輸送スル計畫ハ行ハ
ス一日十列車ヲ此輸送ニ使用スト云フ
昨年十二月以來吉林附近ノ物資調査ヲ命セラレタル高級將校

0687

ノ偵察結果ニ依リ、軍隊若シ此地方ノ物資ヲ用ユ、糧食ヲ為
メ月々四列車ヲ露國ヨリ補給スルハ足レリ、即チ一列車ハ大麥
其他、一列車ハ麵粉、一列車ハ米、一列車ハ罐詰ナリト

参考

沿黒龍參謀ノ編纂セル東亞作戰地概論ニヨレハ
毎年哈爾濱附近ノ雜穀、剩餘七千二百萬並
ナリト此量ハ人員百萬、馬匹三十萬頭ヲ養ヒ得ヘ
ン

蒙古ニ牛疫又發生シ既ニ貝加尔地方ニ侵入セリ東部西
伯利亞目下飢饉ノ状態ニ在リト云フ

明治三十八年七月三日

大本營海軍幕僚

0688

0689

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

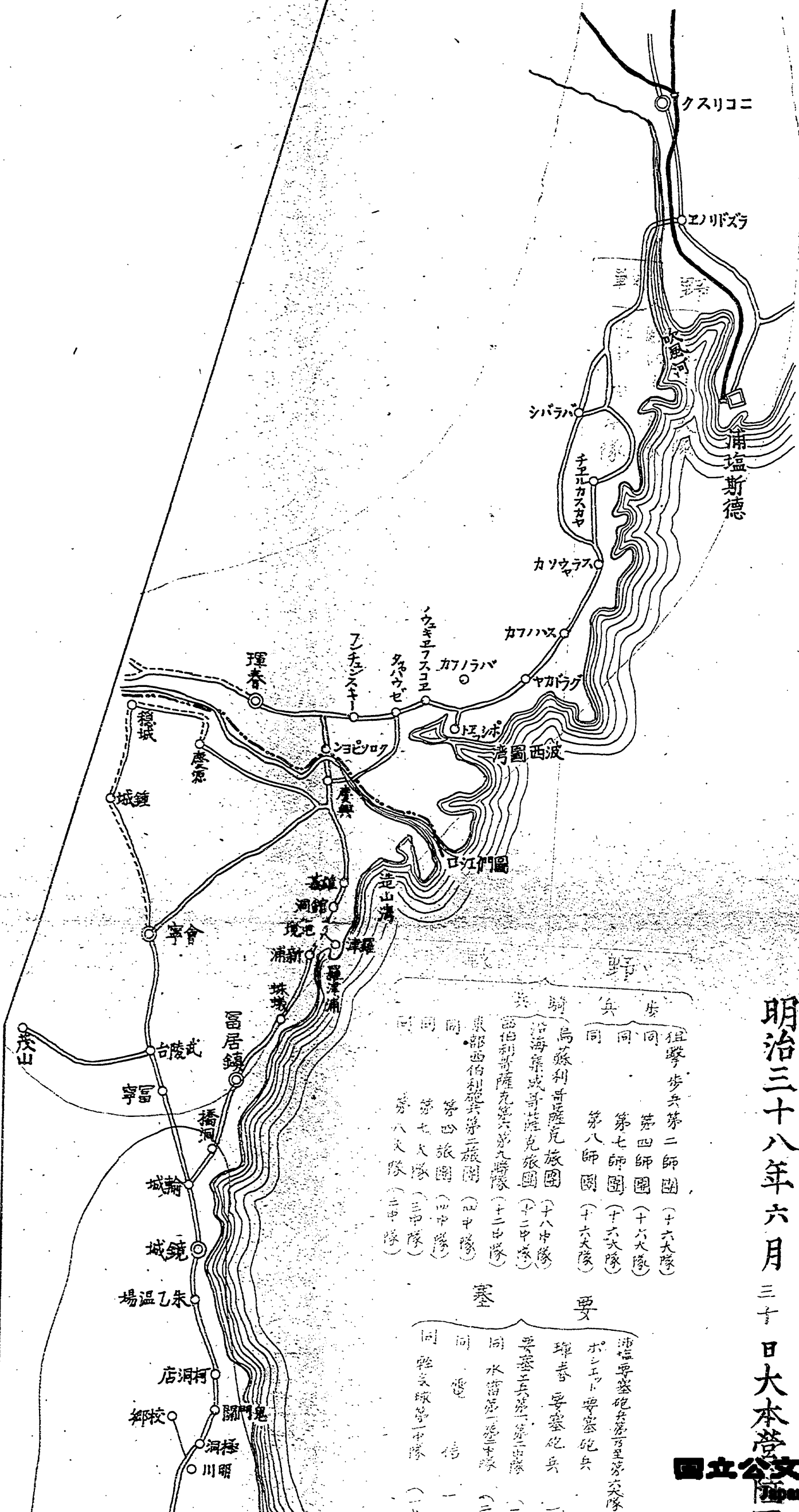
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="655 669 1115 1093"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2								
3	4								
5	6								
7	8								
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め								
上記のとおり分割撮影した事を証明する。									

烏蘇利方面

秘

極東露軍之配置略圖



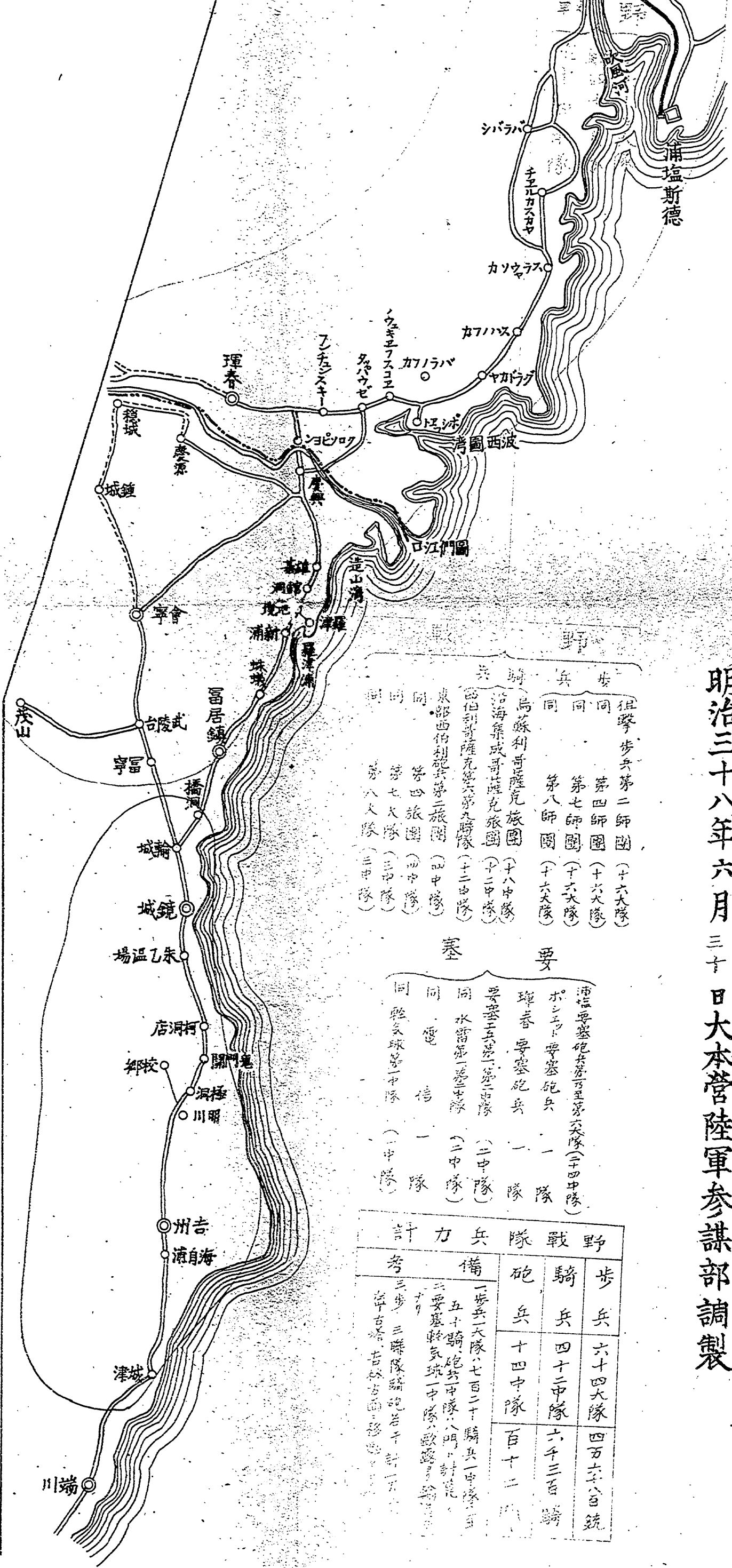
騎兵		歩兵		砲兵	
烏蘇利哥薩克旅團	(十八中隊)	第壹師團	(十六大隊)	重砲兵旅團	(十六大隊)
沿海軍政哥薩克旅團	(十二中隊)	第貳師團	(十六大隊)	輕砲兵旅團	(十六大隊)
烏蘇利哥薩克第九旅團	(十二中隊)	第參師團	(十六大隊)	重砲兵旅團	(十六大隊)
烏蘇利哥薩克第三旅團	(四中隊)	第肆師團	(十六大隊)	輕砲兵旅團	(十六大隊)
烏蘇利哥薩克第二旅團	(四中隊)	第伍師團	(十六大隊)	重砲兵旅團	(十六大隊)
烏蘇利哥薩克第一旅團	(四中隊)	第陸師團	(十六大隊)	輕砲兵旅團	(十六大隊)

要塞		要	
浦溫	第一中隊	浦溫要塞砲兵第壹中隊	
同	第二中隊	浦溫要塞砲兵第貳中隊	
同	第三中隊	浦溫要塞砲兵第參中隊	
同	第四中隊	浦溫要塞砲兵第肆中隊	

明治三十八年六月三十日大本營

露軍之配置略圖

明治三十八年六月三十日大本營陸軍參謀部調製

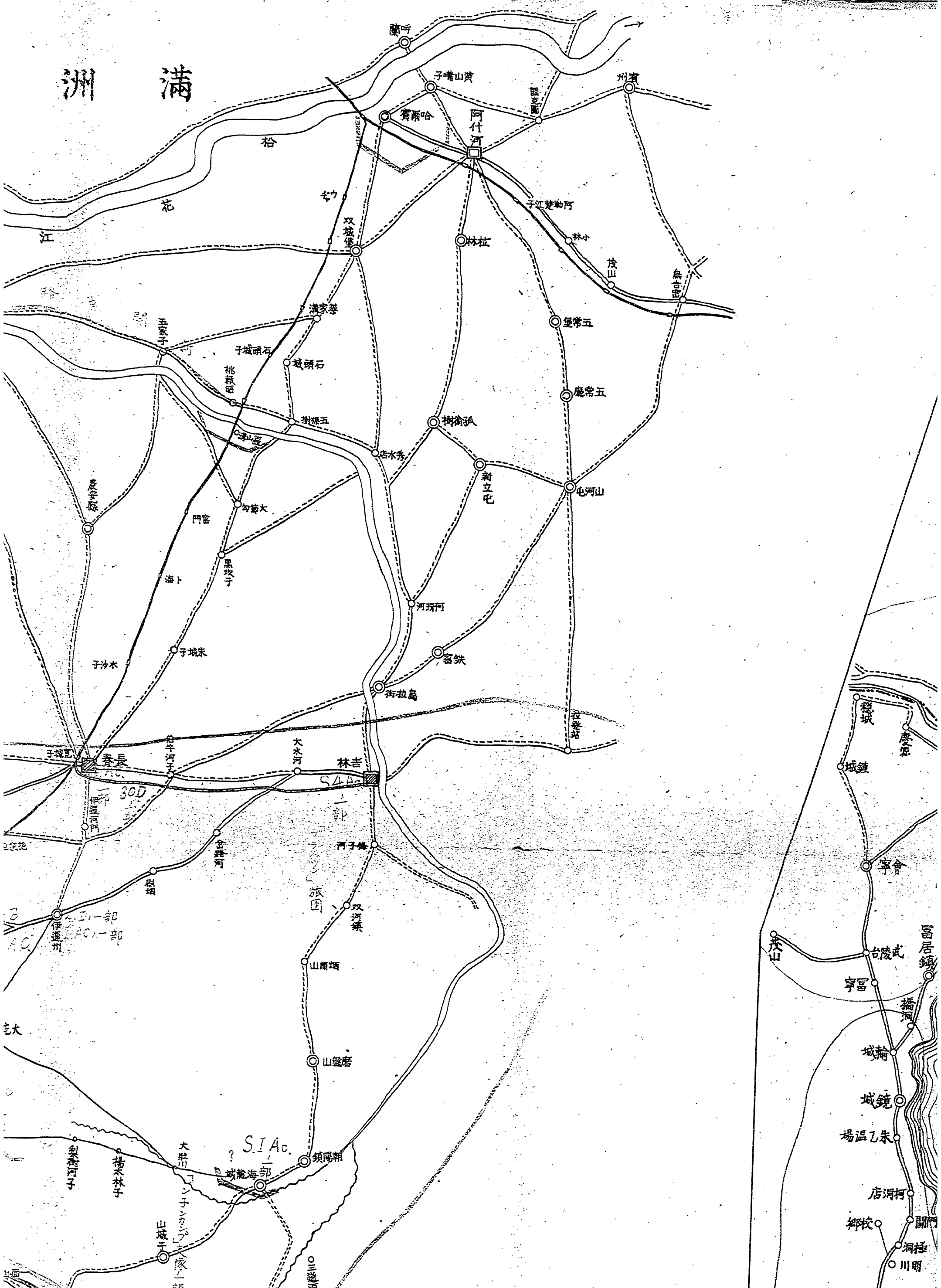


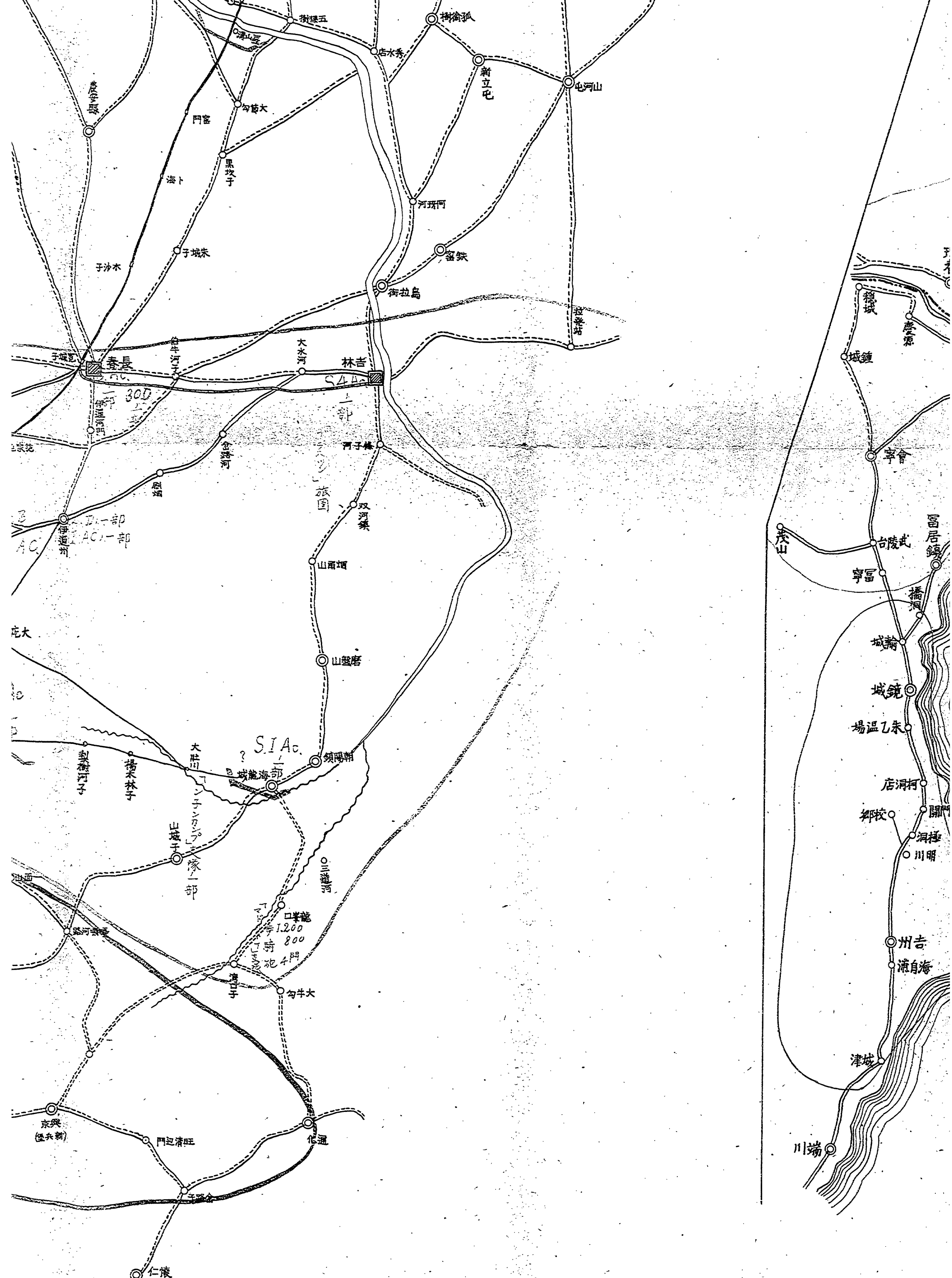
野	兵	騎	砲
第一師團 (十六大隊)	同	同	同
第二師團 (十六大隊)	同	同	同
第三師團 (十六大隊)	同	同	同
第四師團 (十六大隊)	同	同	同
第五師團 (十六大隊)	同	同	同
第六師團 (十六大隊)	同	同	同
第七師團 (十六大隊)	同	同	同
第八師團 (十六大隊)	同	同	同
第九師團 (十六大隊)	同	同	同
第十師團 (十六大隊)	同	同	同
第十一師團 (十六大隊)	同	同	同
第十二師團 (十六大隊)	同	同	同
第十三師團 (十六大隊)	同	同	同
第十四師團 (十六大隊)	同	同	同
第十五師團 (十六大隊)	同	同	同
第十六師團 (十六大隊)	同	同	同

要塞	要
浦塩斯德	同
西波圖	同
江門圖	同
吉州	同
海州	同
...	...

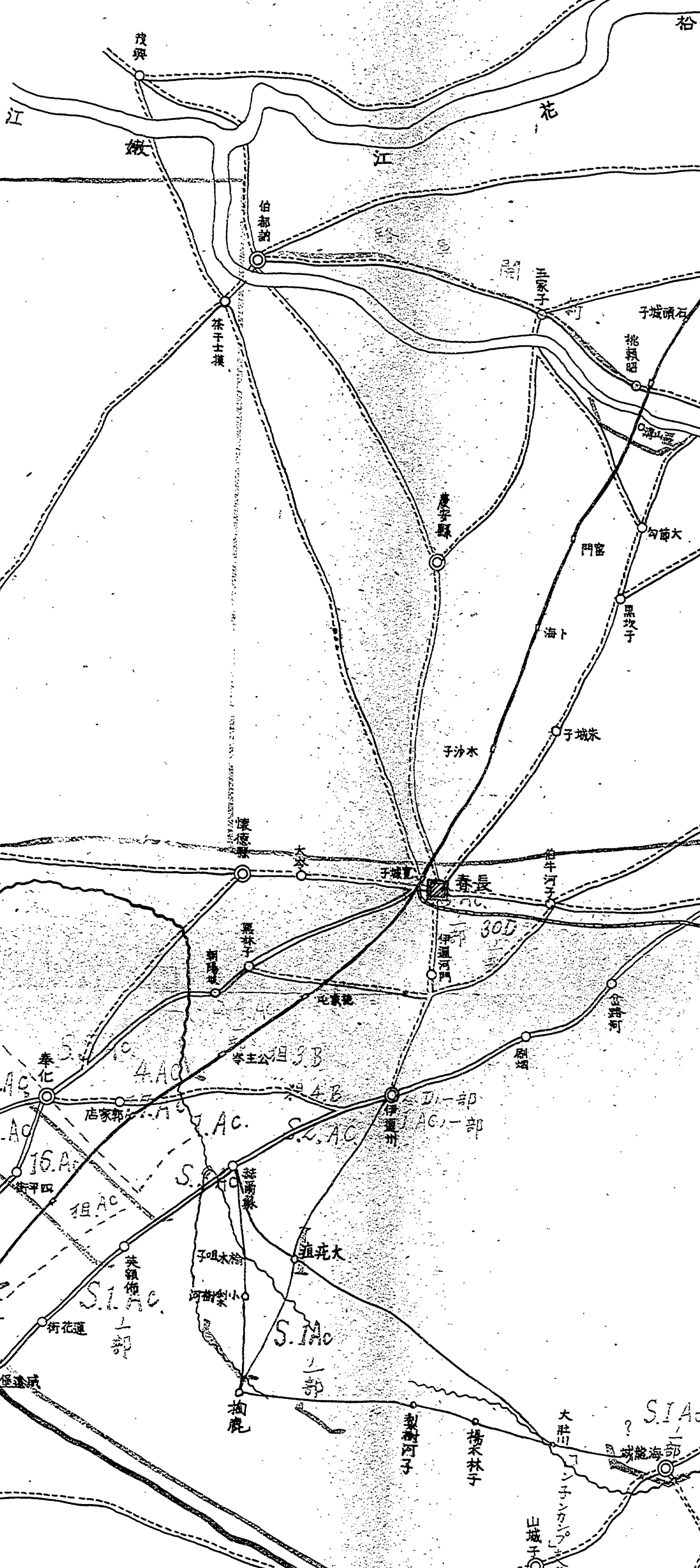
野	戰	隊	兵	力	計
步兵	騎兵	砲兵	兵	備	考
六十四大隊	四十二中隊	六千三百騎	十四中隊	一百一十二	...

滿洲





滿洲方面



歩 砲

第一軍	西伯利第一軍	同	同	同	同	同	同	同	同
步兵	步兵	步兵	步兵	步兵	步兵	步兵	步兵	步兵	步兵
(三十二)	(三十二)	(三十二)	(三十二)	(三十二)	(三十二)	(三十二)	(三十二)	(三十二)	(三十二)
(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)	(八)

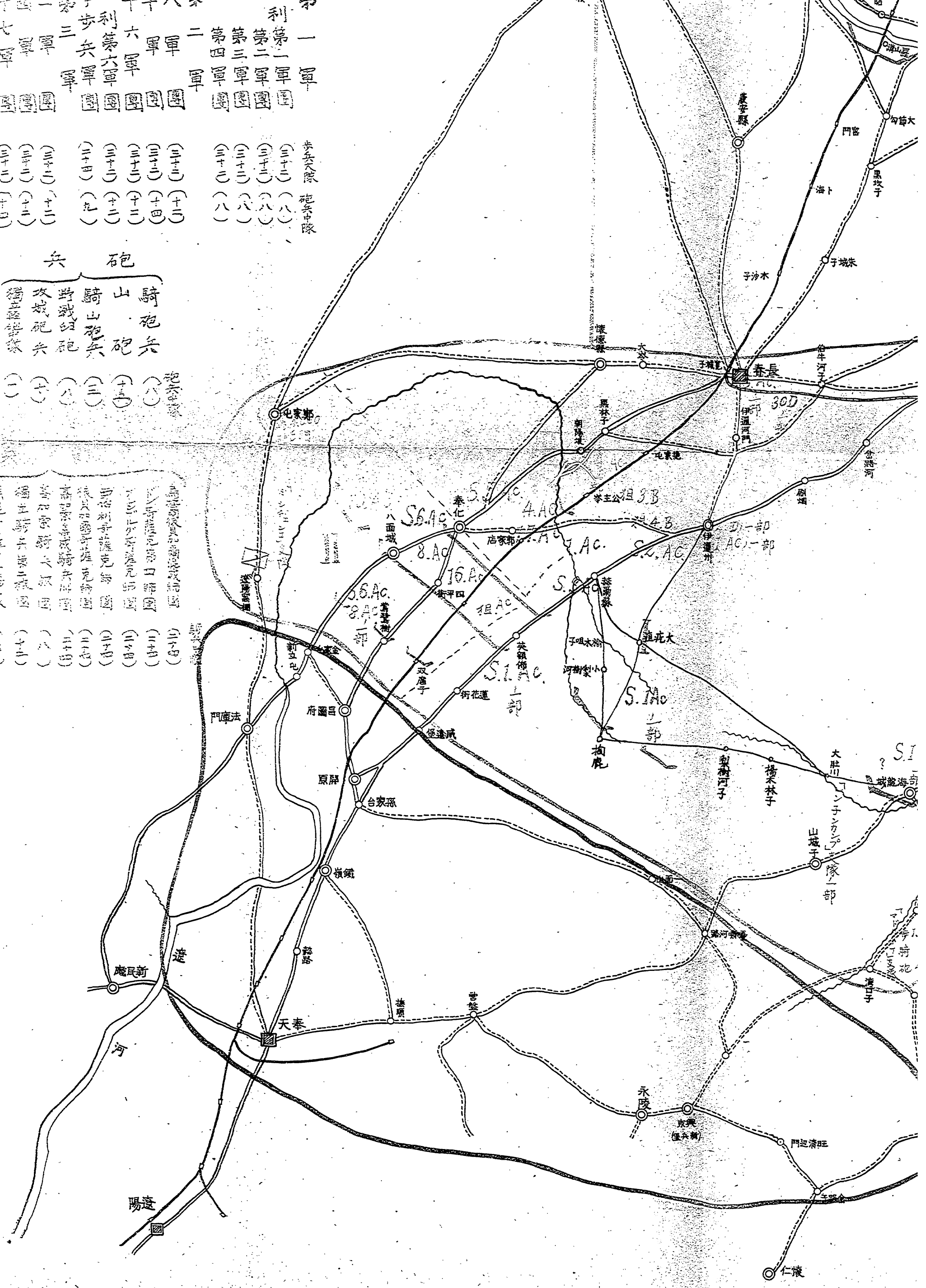
砲 兵

騎砲兵	山砲	騎砲兵	野砲	野砲	野砲	野砲	野砲	野砲	野砲	野砲
(八)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)	(三)

第一軍團 (三十二) (八)
 第二軍團 (三十二) (八)
 第三軍團 (三十二) (八)
 第四軍團 (三十二) (八)
 第五軍團 (三十二) (八)
 第六軍團 (三十二) (八)
 第七軍團 (三十二) (八)
 第八軍團 (三十二) (八)
 第九軍團 (三十二) (八)
 第十軍團 (三十二) (八)
 第十一軍團 (三十二) (八)
 第十二軍團 (三十二) (八)
 第十三軍團 (三十二) (八)
 第十四軍團 (三十二) (八)
 第十五軍團 (三十二) (八)
 第十六軍團 (三十二) (八)
 第十七軍團 (三十二) (八)
 第十八軍團 (三十二) (八)
 第十九軍團 (三十二) (八)
 第二十軍團 (三十二) (八)

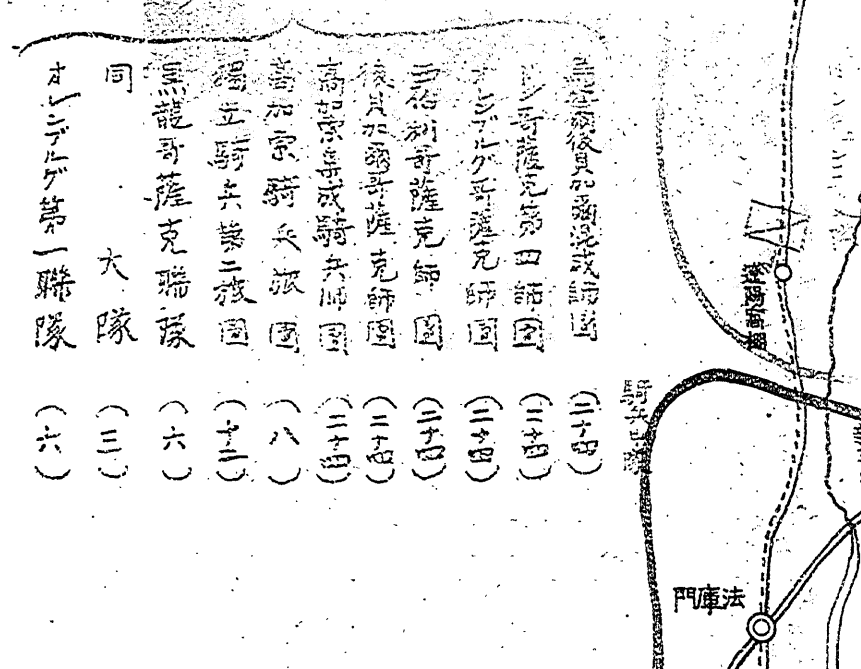
砲兵
 騎砲兵 (八)
 山砲兵 (三)
 騎山砲兵 (三)
 野砲兵 (六)
 攻城砲兵 (六)
 鐵甲砲兵 (一)

第一師團 (八)
 第二師團 (八)
 第三師團 (八)
 第四師團 (八)
 第五師團 (八)
 第六師團 (八)
 第七師團 (八)
 第八師團 (八)
 第九師團 (八)
 第十師團 (八)
 第十一師團 (八)
 第十二師團 (八)
 第十三師團 (八)
 第十四師團 (八)
 第十五師團 (八)
 第十六師團 (八)
 第十七師團 (八)
 第十八師團 (八)
 第十九師團 (八)
 第二十師團 (八)



歩 砲 兵		
西伯利第一軍團	(三十三)	(八)
同第二軍團	(三十三)	(八)
同第三軍團	(三十三)	(八)
同第四軍團	(三十三)	(八)
第八軍團	(三十三)	(十四)
第十九軍團	(三十三)	(十二)
西伯利第六軍團	(三十三)	(十二)
狙撃步兵軍團	(三十四)	(九)
第一軍團	(三十二)	(十二)
第十四軍團	(三十二)	(十二)
第十七軍團	(三十三)	(十四)
西伯利第五軍團	(三十三)	(十二)
第七十一師團	(十六)	(六)
京都府立後援步兵第十師團	(十六)	(四)
狙撃步兵第三、第四旅團	(十六)	(六)
西伯利獨立後援步兵旅團	(四)	
後黑龍龍境第二、第四旅團	(八)	
フランスン徒歩第二旅團	(六)	

砲 兵		
騎砲兵	(八)	砲兵計
山砲	(十一)	
騎山砲兵	(三)	
野戰砲	(六)	
攻城砲	(十)	
獨逸砲隊	(二)	



備

一、本自補充兵約二万到着、且東部西伯利狙撃步兵各聯隊、第四大隊ヲ編成セルニ、因リ步兵一大隊ノ銃數ヲ五百八十ト計算ス、但新來ノ第四軍團、狙撃第三、第四旅團、並後黑龍龍境第二旅團、及フランスン徒歩旅團、計五十八大隊ヲ九百ト計算ス、騎兵六百五十騎ト計算ス。

二、烏蘇利、哥薩克旅團、及アムグンスキー第一聯隊、烏蘇利方面ニ在ルカ、如キヲ以テ之ヲ省ケリ、又高加索騎兵旅團、各聯隊、四中隊編成ナルカ、如キヲ以テ之ヲ訂正セリ。

三、本表ノ砲數、外ニ哈爾濱、重砲約二百五十門アリ。

四、本圖外歐露ヨリ増加スヘキ左ノ團隊アリ。

考

豫備第五十三師團（歩十六大隊）
東部西伯利攻城砲兵聯隊（砲四中隊）
同、速射山砲第六、第七大聯隊（砲三中隊）
外ニ補充兵十方目下輸送中。

計 歩十六大隊
砲七中隊

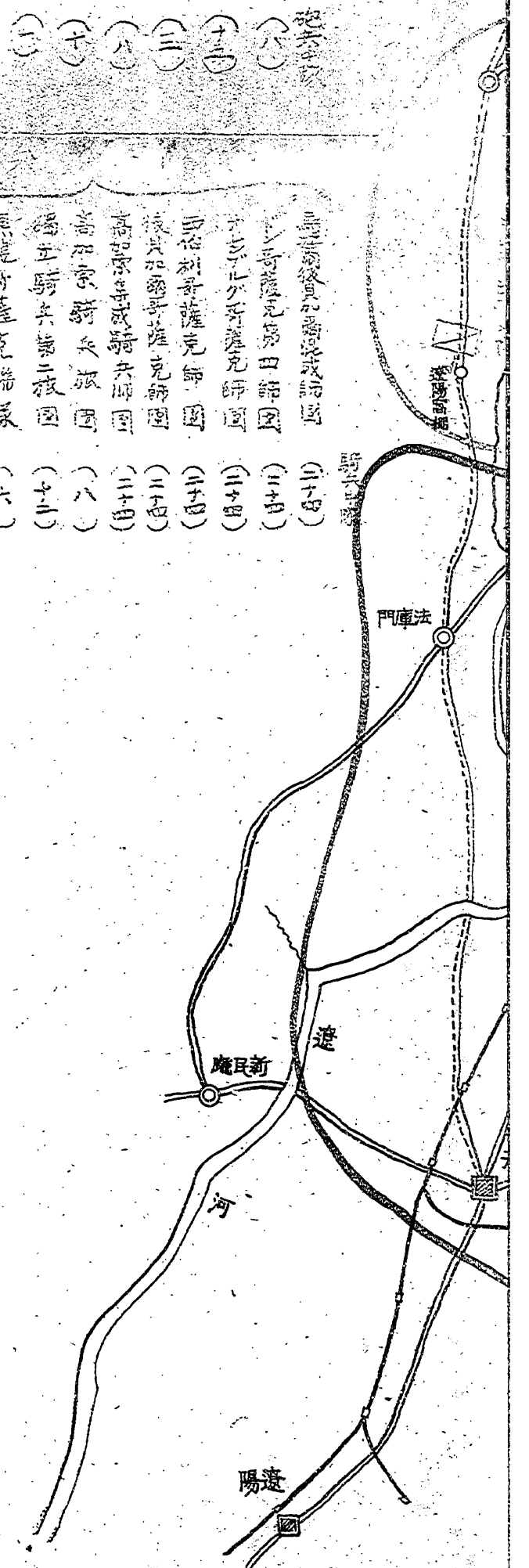
鳥蘇利方面兵力計		
步兵	四百七十四	
騎兵	七百十九	
砲兵	二百二十七	

第五師團	第一軍團	(三十一)	(八)
同	第二軍團	(三十一)	(八)
同	第三軍團	(三十一)	(八)
同	第四軍團	(三十一)	(八)
第八軍團	第一軍團	(三十一)	(十二)
第十軍團	第一軍團	(三十一)	(十四)
第十六軍團	第一軍團	(三十一)	(十三)
西伯利亞第六軍團	第一軍團	(三十一)	(十三)
西伯利亞第六軍團	第一軍團	(三十一)	(九)
第一軍團	第一軍團	(三十一)	(十二)
第一軍團	第一軍團	(三十一)	(十三)
第十七軍團	第一軍團	(三十一)	(十四)
西伯利亞第三軍團	第一軍團	(三十一)	(十三)
第七十一師團	第一軍團	(十六)	(六)
東部西伯利亞步兵第十師團	第一軍團	(十六)	(四)
西伯利亞步兵第三旅團	第一軍團	(十六)	(六)
西伯利亞獨立旅團	第一軍團	(四)	(四)
後黑龍龍境第二旅團	第一軍團	(八)	(八)
フラスン徒歩第二旅團	第一軍團	(六)	(六)

砲兵

騎砲兵	(八)
山砲	(十三)
野戰砲	(八)
攻城砲	(十)
獨立砲隊	(一)

騎砲兵	(八)
山砲	(十三)
野戰砲	(八)
攻城砲	(十)
獨立砲隊	(一)
騎砲兵	(八)
山砲	(十三)
野戰砲	(八)
攻城砲	(十)
獨立砲隊	(一)
騎砲兵	(八)
山砲	(十三)
野戰砲	(八)
攻城砲	(十)
獨立砲隊	(一)
騎砲兵	(八)
山砲	(十三)
野戰砲	(八)
攻城砲	(十)
獨立砲隊	(一)



鳥蘇利方面兵力計		
砲兵	騎兵	歩兵
二百二十中隊	百七十九中隊	四百七十四大隊
千八百八十門	二万六千八百五十騎	二十九萬三千四百九十銃

備

一本自補充兵約二万到着し且東部西伯利亞駐歩兵各聯隊第四大隊ヲ編成スニ因リ歩兵一大隊ノ銃數ヲ五百八十ト計算ス但新來ノ第四軍團組數ヲ第三第四旅團並後黑龍龍境第二旅團及フラスン徒歩旅團ノ計五十八大隊ヲ九百ト計算ス(騎兵百五十騎ト計算ス)

二鳥蘇利哥薩克旅團及「アルグンスキー」第一聯隊ハ烏蘇利方面ニ在ルカキヲ以テ之ヲ省ケリ又高加索騎兵旅團ノ各聯隊ハ四中隊編成ナルカキヲ以テ之ヲ訂正セリ

三本表ノ砲數ノ外ハ哈爾濱至重砲約二百五十門アリ

四本圖外歐露ヨリ増加スヘキ左ノ圖隊アリ

豫備第五十三師團(歩十六大隊)
東部西伯利亞砲兵聯隊(砲四中隊)
同連射山砲第十六至第十七聯隊(砲三中隊)
外補充兵十万日下輸送中

考

計 歩十六大隊
砲七中隊

極秘

大海情 陸第四拾壹號

露軍ノ近況

一、一般ノ情況

(一) 滿洲方面

(七月十日大本營
陸軍幕僚調査)

彼我偵察隊ノ衝突依然頻繁ナル外情況ニ變化ナシ

歐電ノ報スル増援補充兵ハ悉クハ長春以南ニハ達セザルモノ

如シ吉林方面若シクハ烏蘇利方面ニ赴キツ、アルヤリ疑アリ吉

林ニハ兵力増加ニテ數萬ニ上リト云フ説アルモ確カナラス

近頃大
興安山嶺ノ隧道崩落シ二日間列車ノ交通ヲ中止セリト云フ此等ノ為メ増援

隊ハ多クハ黑龍江ニ由レルヤモ知ル、カラス

歐露狙撃步兵旅團五個ノ五師團ニ編成替ヲ行ヒ各旅團長ノ

任命アリト云フ其他先日未東部西伯利狙撃步兵各聯隊ニ

第四大隊ヲ増設シ同歩兵第四第七及第十師團并ニ同歩兵

0698

第四十一聯隊ヲ再設若クハ新設セル等大ニ從來ノ編成ヲ擴張セリ今面ノ歐露ニ於ケル動員ヨリ推セハ尚ホ其他ニモ擴張スハキ部隊アルカ如キモ未タ之ヲ詳ニセス

(二) 烏サ蘇利方面

去月二十日頃、圖們江ヲ渡リシ敵ハ步兵三四千騎兵三三千砲六乃至八門ニシテ二十八、九日頃會寧ニ到著シ其大部ハ七月一、二日會寧ニ前進シ從來ノ騎兵二千砲八門ト合セリ二日虜通洞附近彼我偵察隊ノ衝突ニ於テ敵ノ東部西伯利狙撃手步兵第一師團ノ第七聯隊ノ一部此方面ニ在ルコトヲ確メ得タリ

會寧ヨリ會寧ニ通スル海岸道ニハ諸所僅少ノ監視兵アルニ六月二十二、三日雄基ニ小蒸氣船六隻來リ糧食ヲ揚陸シ會寧方向ニ運搬セリト云フ

浦塩ノ糧食僅少ハ一説ニ三月月又フルニ過キストアリナル為メ住

民一般ニ退去ヲ命セリト云フ

(三) 樺太方面

去ル七日正午ヨリ我軍ノ一部ハメレヤニ上陸シ八日ソロイヨフカ北方高地ニ據ル敵ヲ駆逐セリ是ヨリ先キ七月午後二時敵ハ既ニユルサコフヲ燒キ同市ハ抵抗ナク八日朝我軍ノ占領ニ歸セリ同市附近ニ於テ十二砲二門十三斤砲二門我鹵獲ニ歸セリ敵ハウラジミロフカ方向ニ退却セリ其兵力詳ナラサルモ歩騎兵千百ニ上ラサルモノ如シ

(四) 欧露ニ於ケル情况

謀及軍艦^カホテキニ及水雷艇一隻ハ七月一日オデツサヲ去リルーマニヤ海岸ニ到リ後フエオドニヤニ到リ糧食石炭ヲ要求シ八日コンスタンツア港ニ入港シルーマニヤ官憲ニ降服セリ軍艦^カホアドノスキエツ^カモ亦暴動ニ加担セシモ七月二日砲ノ閉鎖機ヲオデツサ地

0700

方聽ニ納メ歸順セリ運送船「ウエチヤ」及「ポルト」ノ水兵モ
亦暴動ヲ起セシカ暫クニシテ鎮定セリ

リバウニ於テモ水兵暴動ヲ起シ建築物ヲ破壊セリヘルソン^{ツナ}東ニテハ懲治隊ノ兵卒一揆ヲ起シ練兵中大隊長及大尉ヲ殺傷セシメ捕縛セラレタリキ^エニテハ兵卒ニ名暴動ニ關スル檄文ヲ兵營ニ配付セシ廉ニ依リ軍法會議ニ附セラレタリ其他一般ノ同盟罷工國內到ル所ニ起レリ露都ニテハ今回動員ニテ召集セシ豫備兵ノ人民ト接近スルヲ避ケンカ為メ練兵場ニ宿泊セシメタリ

露國政府ハ水兵ノ暴動引イテ陸軍ニ及ハンコトヲ恐レアリ此等暴動ハ遂ニ平和黨ノ勢力ヲ高メ白皇帝及太公派モ今ヤ媾和ニ傾キツ^アリト云フ

陸軍大臣「カハロフ」中將ハ辭職シ次官「ゲル」中將其後任ト

為ル内務大臣ブルイギンモ辭職シイグナチエーフ大將其後任
タルハント云フ

二、増援軍發著

戰地到着ニ關シテハ情報ナキモ左ノ部隊ハ輸送ノ距離ヨリ推
算セハ本月中旬ニ戰地ニ到着セシモノハ如シ六月八日パンサ以東ニ在リシモノ

一、補充歩兵約二萬五千人

内烏蘇利方面ニ赴クモノアルハク又西伯利水路若クハ黑龍

江ニ由ルモノアルヲ以テ滿洲ニ入リシ歩兵銃數ハ二萬内外ナルシ

二、ダゲスタン及テレククハン騎兵千六百人

三、豫備歩兵第五十三師團

目下輸送中ニ在ルモノ左ノ如シ

一、東部西伯利橋船第三大隊

二、浦塩要塞砲兵二中隊砲十三門

六月十日ツラモスコ
間通過

六月十日モスコ
通過

- 三、機關砲二中隊砲兵彈藥縱列八列車
- 四、第七第十第廿八師團補充兵各三千六百人
- 五、第四十師團補充兵三千六百人憲兵六百人
- 六、東部西伯利狙擊步兵補充兵一万五千人
- 七、第一第三第四第五第六第六師團補充兵約八千四百人
- 八、第五十九第六十補充大隊
- 九、第三十第五十三、第五十四、第二十五、第四十師團
補充兵及沿海州國境守備兵計三万六千人
- 十、第百四十五聯隊補充兵千狙擊步兵第
四旅團補充兵約六千砲兵第二十五第四十三
第四十五旅團補充兵八列車東部西伯利狙擊
第四、第七第八聯隊補充兵約六千（第一第十九
第三十一師團ヨリ各二千人宛出セルモノ）

六月九日、ハンザ、リアレスク
間通過

六月十日、リアレスク、ツौर
間通過

六月十一日、ツौर、モスコ
間通過

六月上旬サマラ通過

六月十日乃至十三日
サマラ 出發

五月下旬六月上旬
オデッサ 出發

六月十日乃至十八日サマラ
通過 毎日六列車一列
車千二百人

六月十八日乃至
二十二日サマラ通過

十一、第四、第七第八第十第十三第三十四

師團、補充兵各二千人

十二、第十九軍團

六月二十三日乃至二十八日

サマラ通過

先頭ハ六月二十八日頃出發、第百四十九、第百五十聯隊ハ七月五日ゴブリン出發

右ノ内輸送中ニ在ル歩兵補充兵ハ總計約十万人ナリクラスノヤルスク

莫斯科間通過ノ間諜ノ報ニ依レハ右ノ師團ノ番號止付合セ

サルモノアリテ真偽保スヘカラス又其兵力モ約三万五千少ナキカ如シ

然レトモ今而者ヲ正シキモノト見レハサマラ通過ノ軍隊ハチエリヤビンスク

ヨリ以東ハ悉ク鉄道ニ由ラスシテ一部西伯利水路ニ由レルモノト見ルノ

外ナシ茲ニ附記シテ疑ヲ存ス

以上ノ諸情況ニ依リ別紙露軍配置一覽圖ヲ調製セリ

三、新動員編成

今更ノ動員ハ六月二十八、二十九日ヨリ始マリ伯得保土、莫斯科、ウマリナ及

キーエフ、ワルシヤワ軍管区ヨリ豫備兵ヲ召集シ馬匹ヲ徵発ス
 二十三日附動員令ノ文意ニ依レハ若干ノ常備部隊、豫備歩兵旅団
 豫備砲兵旅団及特科兵種ヲ動員擴張シ并ニ補充センカ為メナリ
 諸情報ニ依レハ建制軍団ヲ出征セシムル模様ナク極東ニ於ケル新編
 成ニ要スル馬材料ヲ供給シ且ツ内地不穩ニ備フルヲ目的トスルモノ
 如シ

但シ第十九軍団ハ是ヨリ先キ既ニ動員シ其先頭ハ六月二十八、九日頃

ヨリ出發シタリト云ヒ又ワルシヤワ軍管司令官ハ七月二日第十七師

団ノ第二旅団 リュブリン附近ノ 及第百五十二聯隊及工兵第十九大隊

グレストリトウスク 第百四十九聯隊、第百五十聯隊 コブリン 并ニ第百五

十二聯隊 カルワスヤガ ヲ檢閲セリトノ報アルヲ以テ見レハ此軍団ノ動

員出發ノコト或ハ事實ナラン砲兵第十七第三十八旅団ハ新式速

射砲ヲ有シ其第十七旅団ハ既ニ出發セリト云フ

0705

今面ノ動員部隊ハ未タ詳ナラサルモ左ノ間諜ノ報ハ其大要ヲ究規
フニ足ル

莫斯科軍管、龍騎兵第十八聯隊、選抜歩兵六聯隊（出征
ハ中止セラル）

ウチリナ軍管、ワルシヤワヨリ移転ノ歩兵二聯隊、騎兵第四師
團ノ龍騎兵第十一、第十二聯隊及騎砲兵二中隊（内歩兵一聯隊
騎兵一聯隊ハ何レニカ向ケ出發）

ワルシヤワ軍管、ルコフヨリブレストリトウスクニ移転ノ輜重兵
大隊ヲ十六中隊ニ擴張、ワルシヤワヨリブレストリトウスクニ移
転ノ歩兵第八師團ノ四聯隊（内第三十、第三十二聯隊ハ出發）
オデツサヨリ移轉ノ第三十四師團ノ第百三十四、第百三十五、第
百三十六聯隊ハ稱號ヲ変更シテ出征ノ旨、又バロストツ第十
六師團ノ歩兵四聯隊モ新稱號ヲ受クヘシ、砲兵等ノ豫備

兵数多ヲキ^ルエ^フ 箇^ノ區^{ヨリ}召集セリ豫備步兵第四十六第四
十六第四十七、第四十八旅團ノ半数ハ出征^ノヲ^サシ 第十師團ノ步
兵第四十聯隊要塞步兵四聯隊要塞砲兵（内四中隊ハ六月
二十日出發）工兵一大隊近衛第三師團ノ步兵四聯隊ハ出征
未定^リ リュブリン^ノ 步兵第十七、第十八師團悉皆但^シ行李
ノ人員材料アルモ馬匹車輛ヲ徵集セス^ル ホルム^ノ 騎兵第七師
團ノ第二十聯隊騎兵第十四師團ノ第四十、第四十一聯隊砲兵
二旅團^ハ 砲兵第十七旅團ハ既^ニ何^レニカ向^ケ出發セリ
目下暴動鎮撫勳員部隊監視^ノ為^メ各國隊ハ其衛戍地ヲ
彼是變更シアルヲ以テ確實^ニ勳員部隊ヲ知^ルト困難ナリ
シヲ以テ右ハ誤^ナキヲ保^セス
第十三軍團勳員ヲ始メタリトノ説アリ又第二十一軍團派遣ノ説
アルモ確^ナラス

0707

バン地方ノ五郡ニ於テ哥薩克六聯隊、動員アリ是レ第三回
ノ動員ニシテ内地守備ニ宛ツルモノナリト云フ
編成等ニ関シテハ左ノ情報アリ

一、戦地ニ在ル狙撃旅団五個ヲ師団ニ擴張シ當該旅団長
十名ノ任命アリ

二、露帝ハ近日出發ノ歩兵第二十二第三十七師団附属機関
砲隊ヲ檢閲セリ第九、第三十一、第四十一師団附属機関砲
隊ノ檢閲モ亦畢レリ

三、新編成ノ東部西伯利山砲第二乃至第二十六中隊ノ將校
ハ六月二十二日任命ヲ畢ル

四、臼砲第八大隊ハ砲兵第五、第三十二旅団ヨリ編成シ極東ニ
派遣スヘシ

五、攻城砲兵第三聯隊ノ第四大隊（六門砲、四中隊）ハ七月三

日出發ノ旨(第三聯隊ニハ第四大隊ナルモノナシ此情報ハ何等
カノ誤ナラン或ハ東部西伯利攻城砲兵第三大隊(四中隊)ノ出
発ヲ云フナラン乎)

0709

- 六、六月二十日、勅令ニ依リ第三軍團ト第九軍團ト又第十五
軍團ト第十九軍團トノ各砲兵司令部名稱ヲ彼是ニ交換セシ
メラル又第七十三、第七十四、第七十五混成砲兵旅團ニ屬スル第
二十八、第六、第十旅團ノ各中隊ヲ第五、第六中隊ニ改メ旅
團ヲ二大隊編成トシ且ツ混成ノ名稱ヲ廢セリ
- 七、參謀本部ヲ皇帝ノ直轄ニ改メハリツイン中將 騎兵總監部ヲ
總長ニ任ス
- 八、黑龍江地方ニ義勇隊ヲ編成スル為メ志願者ヲ募集セ
リ
- 九、極東總司令官ハ其司令部ノ定員ヲ改正シ大ニ冗員ヲ淘

汰セリ

十、豫備歩兵第四十六、第四十七、第四十九旅團司令部附佐
官ハ同號ノ歩兵師團參謀長ニ任セラル依テ右三旅團
ノ勤員セラレタルヲ知ルヘシ

十一、第五、第四十四師團（第九軍團）ノ機關砲中隊長以下
將校ノ任命アリ

明治三十八年七月十三日

大本營海軍幕僚

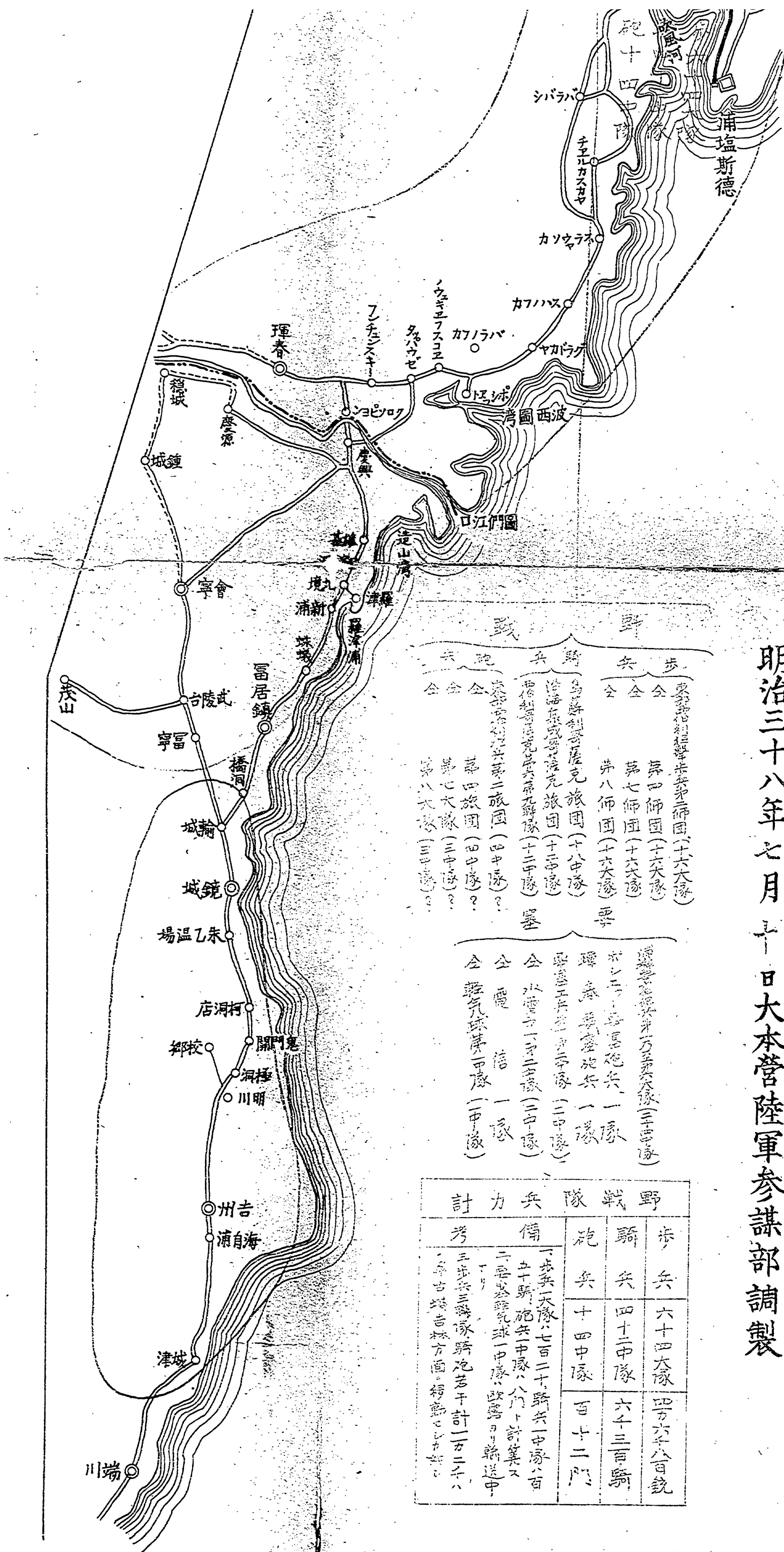
0710

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="655 663 1114 1084"><tr><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>7</td><td>8</td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8
1	2								
3	4								
5	6								
7	8								
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め								
上記のとおり分割撮影した事を証明する。									

露軍之配置略圖

明治三十八年七月十日大本營陸軍參謀部調製

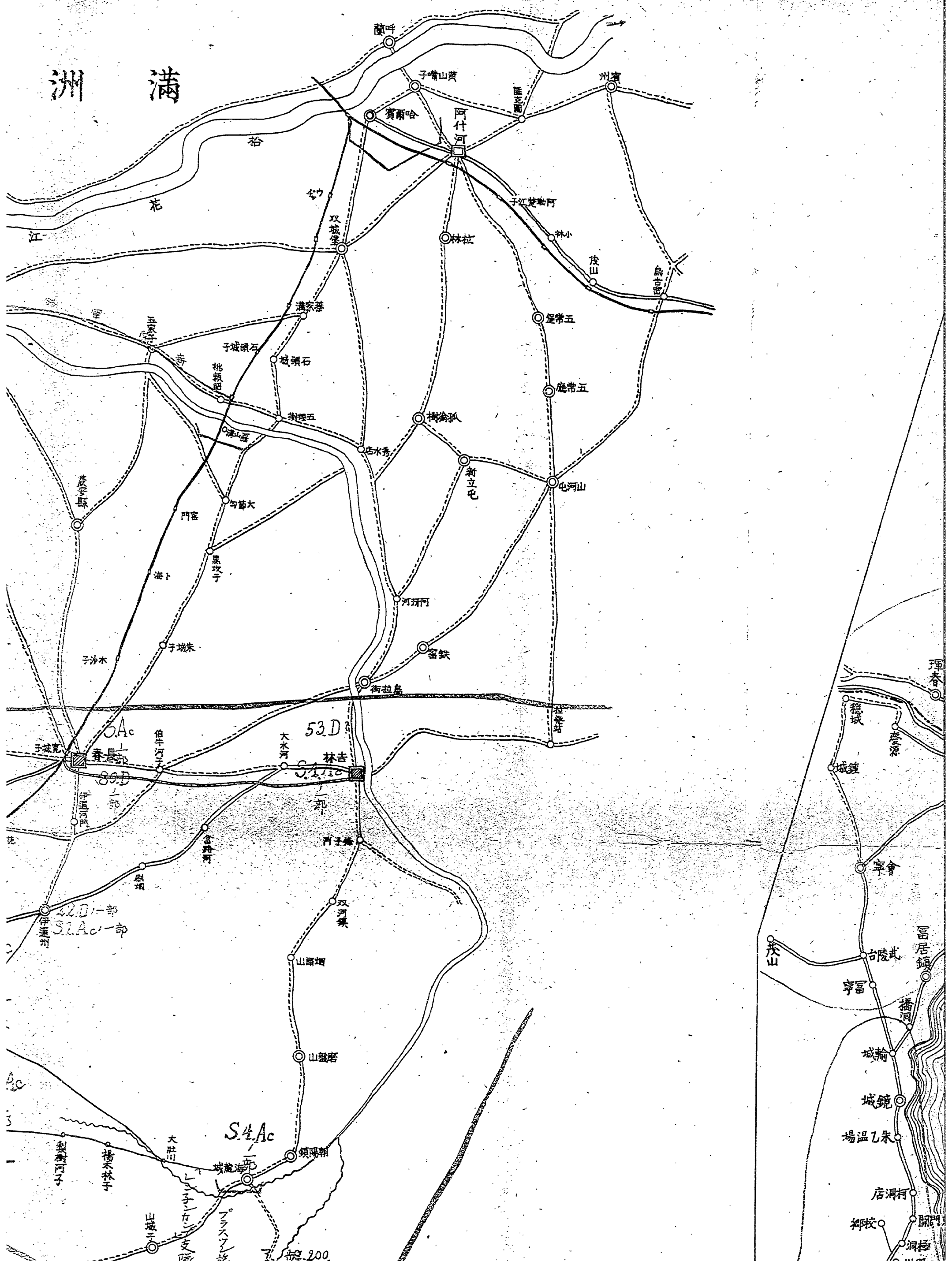


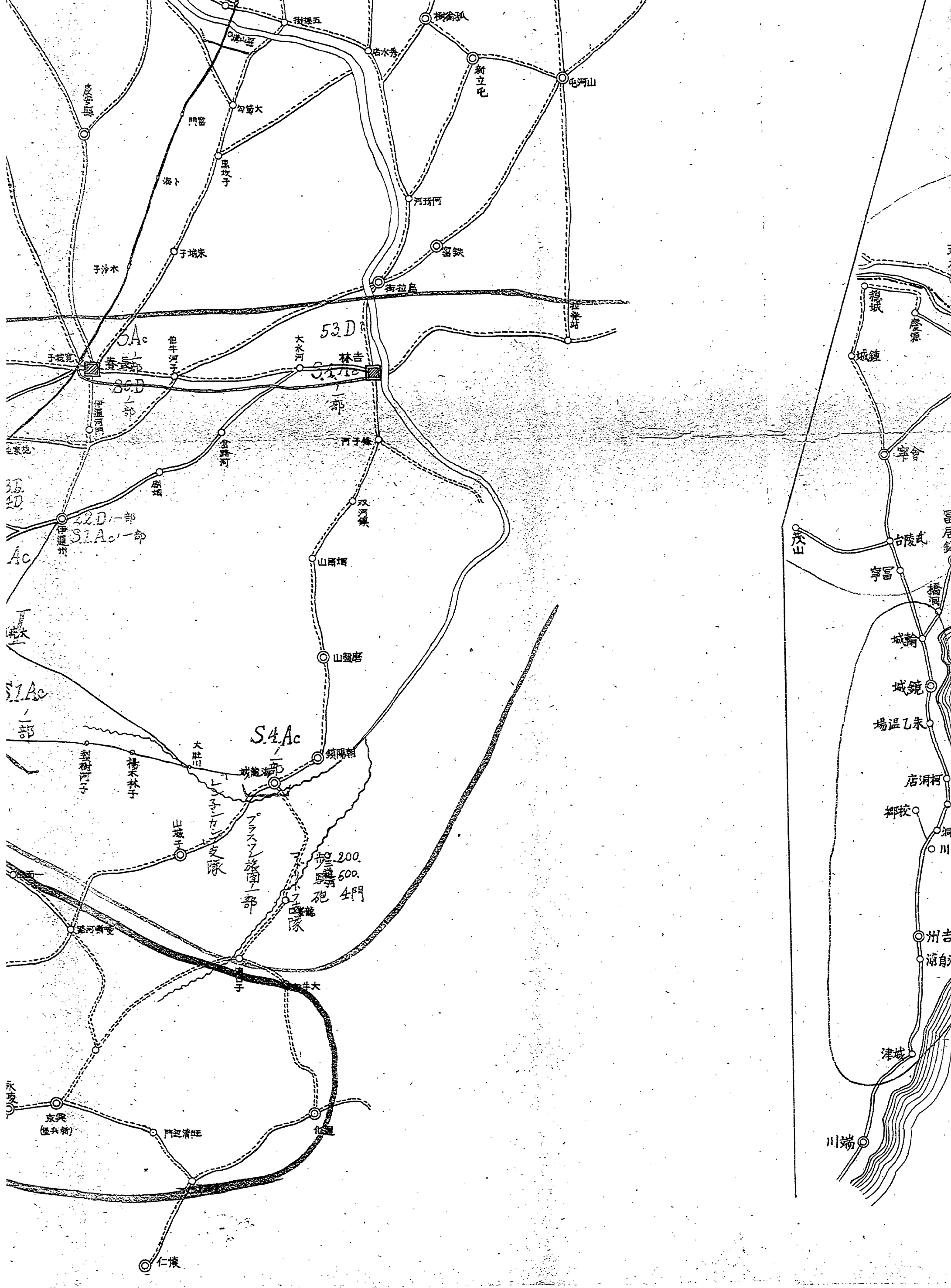
野戰		砲兵		騎兵		歩兵	
全	全	全	全	全	全	全	全
第一師團 (十六大隊)	第二師團 (十六大隊)	第三師團 (十六大隊)	第四師團 (十六大隊)	第五師團 (十六大隊)	第六師團 (十六大隊)	第七師團 (十六大隊)	第八師團 (十六大隊)

野戰砲兵 第一師團 第一旅團 (十二中隊) 第二旅團 (十二中隊) 第三旅團 (十二中隊) 第四旅團 (十二中隊) 第五旅團 (十二中隊) 第六旅團 (十二中隊) 第七旅團 (十二中隊) 第八旅團 (十二中隊)

野戰	隊		計
	砲兵	騎兵	
野戰砲兵	十四中隊	百十二門	野戰砲兵 十四中隊 百十二門
騎兵	四十二中隊	六千三百騎	騎兵 四十二中隊 六千三百騎
歩兵	六十四大隊	四万六千八百銃	歩兵 六十四大隊 四万六千八百銃

滿洲





第一軍團 第二軍團 第三軍團 第四軍團 第五軍團 第六軍團 第七軍團 第八軍團 第九軍團 第十軍團

(十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六) (十六)

(十三) (十四) (十二) (十二) (十三) (十三) (十三) (十三) (十三) (十三)

砲 騎 砲 騎 砲 騎 砲 騎 砲 騎

騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八)

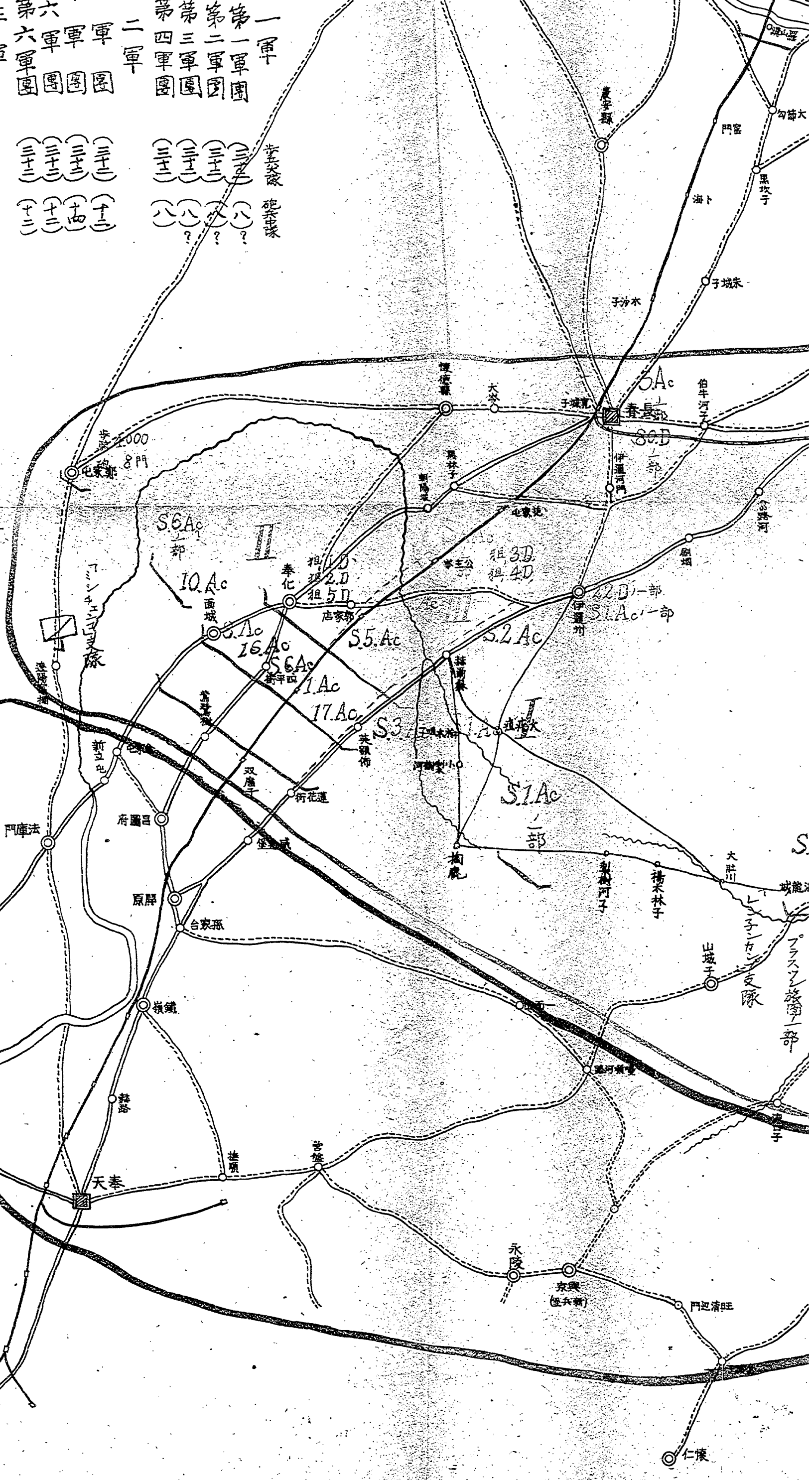
砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二)

騎 砲 騎 砲 騎 砲 騎 砲 騎 砲

騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八) 騎砲兵 (八)

砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二) 砲 (十二)

(三) (六) (十二) (八) (十二) (十二) (十二) (十二) (十二) (十二)



考 備

一 本月中旬補充兵約二方到着シ且ツ粗撃歩兵旅団五個ヲ五師團ニ擴張セシト全體ニ編成替ヘシト云キニ因リ新來ノ第
 四軍團粗撃第三旅団花後屋竜護境第二旅団「オラスン」徒歩旅団及豫備歩兵第五十三師團ヲ計七十四大隊ニ合算ス
 歩兵一大隊ノ平均銃數ヲ六百二十ト計算ス(騎兵ハ百五十騎ト計算ス)
 二 烏蘇利哥薩克旅団及「オラスン」第一聯隊ヲ烏蘇利方面ニ在ルニ如キヲ以テ之ヲ省キ又高加索騎兵旅団ハ四
 中隊編成ニ如キヲ以テ之ヲ計正ス
 三 砲補充詳ナラス本表ニ編成替政應粗撃兵五師團分ノ砲數ヲ加算セリ此ノ外ハ爾復重砲約二百五十門アリ
 四 本國外政露ヨリ增加スヘキ左ノ団隊アリ

第 十九 軍 團 (歩三十二大隊砲十三中隊)
 東部西伯利攻城砲兵聯隊 (砲四中隊)
 全速射山砲第六至第三六家 (砲十一中隊)
 野戰山砲第一乃至第八大隊 (砲十六中隊)
 外ニ補充兵十萬目下輸送中

計 歩三十二大隊
砲四十三中隊

兵	砲	騎
第十七軍團	(三三)	(十四)
西伯利第五軍團	(三二)	(十二)
第七十一師團	(十六)	(六)
第五十三師團	(十六)	(六)
東部西伯利粗撃第三旅団	(十六)	(六)
粗撃歩兵第一師團	(十六)	(六)
第二師團	(十六)	(六)
第三師團	(十六)	(六)
第四師團	(十六)	(六)
第五師團	(十六)	(六)
同	(十六)	(六)
同	(十六)	(六)
同	(十六)	(六)
西伯利獨立豫備歩兵旅団	(十六)	(六)
後烏龍護境第二第四旅団	(十六)	(六)
「オラスン」徒歩第二旅団	(十六)	(六)
山 砲	(十五)	
騎山砲兵	(三)	
野戰山砲	(八)	
攻城砲兵	(十)	
獨立砲隊	(二)	
オシニルガ哥薩克師團	(三十四)	
西伯利哥薩克師團	(三十四)	
後烏龍護境哥薩克師團	(三十四)	
高加索無敵騎兵師團	(三十四)	
高加索騎兵旅団	(八)	
獨立騎兵第二旅団	(十三)	
烏龍護境哥薩克聯隊	(六)	
同 大隊	(三)	
オシニルガ第一聯隊	(六)	

部南太樺

